

「貿易情報文付き旧世界図」の諸本と情報文

藤田 明 良

はじめに

近世初期の日本では、海域アジアを介してもたらされた欧州の世界観や地理認識に触発され、多種多様な世界図（万国図・輿地図・航路図など）が作成された。それらは、近世全期を通じて転写や複製が繰り返され、豪華な屏風仕立て、手書きの彩色本、単色摺りの版画など様々な形態で、後世に伝えられることになる。そのなかで本稿が対象とするのは、アジア・アフリカ・ヨーロッパの旧世界を描く地図と、日本と貿易関係を持つ諸港市や貿易品などに関する記述がセットとなった一連の世界図群である。本稿では、これを「貿易情報文付き旧世界図」（以下、情報文付き世界図）と称することにしたい。²⁾

掲載されている貿易情報文は、冒頭に「長崎ヨリ異国江渡海之湊口マテ船路積」という共通した表題を掲げ、南京からゴアに至るアジア海域一九ヶ所の諸国・諸港市とヨーロッパのイギリス・オランダについて、長崎と各所の航路距離、各所の日本との貿易品や取引実態、ヨーロッパ人の動向を含めた現地状況などを列挙している。³⁾ その記述は簡潔ながら各所の特徴を明快に活写しており、⁴⁾ 海外交渉史の黎明期といえる大正から昭和初期には、「鎖国」直前のアジア貿易の重要史料として歴史学界の注目を集めていた。⁵⁾ しかし、戦後になると情報文付き世界図の研究は、

古地図学者を中心とする地図部分についての地理学的図像学的な分類や考察が主流になり、情報文は副次的要素として後景に引っ込んでしまっただ観がある。⁶⁾

近年の多言語的学際的アプローチによる海域史研究の盛行により、この貿易情報文がカバーする時期や領域の歴史研究は、新たな展開を見せ蓄積を生み出しつつある。現在の研究水準の俎上にこの貿易情報文をのせることで、さらなる新知見をもたらすことが可能ではないだろうか。

そのための準備作業として本稿では、①情報文付き世界図について先行研究の整理、②各研究が取り上げた諸本の総ざらえの現況確認、③若干の研究展望をおこなうと共に、④確認できた諸本十三点の情報文全文を翻刻するものである。

一 研究史と課題

本稿でいう情報文付き世界図は、近世に制作された世界図の中で、南蛮系世界図（南蛮屏風世界図、世界図屏風）と称されるグループの一角を成すものである。⁷⁾ 近世初期に舶載されてきた西洋製地図を資料として制作された南蛮屏風世界図については多くの研究があるが、個々の地図や情報文の紹介・解説を中心とする研究と、これらの世界図群全体について総合的な検討や分類をおこなった研究とに大きく二分される。⁸⁾ こ

では後者の代表的といえる中村拓氏、秋岡武次郎氏、海野一隆氏、川村博忠氏の研究をとりあげる。まず、この四人の地理学者の研究における南蛮系世界図の中の情報文付き世界図の位置づけについて、一瞥しておきたい。

中村氏は、南蛮系世界図の制作年代と特徴による系統分類を試みるが、六点の情報文付き世界図を、新大陸を除く旧大陸のみを描いた地図群として、一括して「後期I型B」というグループに分類し、六点にI～VIの番号を付している。⁽⁹⁾これに対し秋岡氏は一九五八年の論文で、七点の情報文付き世界図の地図を、赤道線や南北回歸線の有無を基準に、二つのグループ（「三類」と「四類」）に分類する。⁽¹⁰⁾さらに、一九八八年の著書では、一点を加えた八点の情報文付き世界図を一括して「南北アメリカを除いた世界の部分を描画し、かつ付属文として各地域の貿易品を挙げた世界図」というグループに分類し、赤道線や南北回歸線の有無によってさらに二つの小グループ（第一類と第二類）に分ける形に変更している。⁽¹¹⁾

海野氏は、十点の情報文付き世界図を、地図の形状から一括して「方眼図法系丁種」に分類し、さらに一類と二類という小グループに分類した。海野氏の分類は、秋岡氏の分類を基本的に踏襲しているが、地図中の帆船の有無や付属文の年紀の有無などの、新たな基準も付加されている。⁽¹²⁾川村氏は、海野氏より一点少ない九点の情報文付き世界図について、海野氏の一類と二類を踏襲したというA類とB類の分類を示し、情報文における朱印船情報の有無や、地図中の西アジア・アフリカ・ヨーロッパ地名の相違など、新たな視点を加えている。⁽¹³⁾

このように、地理学における情報文付き世界図の研究は、重要な成果を挙げ深化をとげたのであるが、問題点や課題も存在する。問題点は、各氏が考察や分類のために取り上げられている世界図の諸本や数が、論

者によってバラバラであることである。先行研究の分類を踏襲している場合でも、挙がっている地図数に増減があり、また分類先が逆転してしまっているケースもある。⁽¹⁴⁾勿論、これには理由もあって、かつて現存していたものが、滅失や所在不明になってしまったケースや、所蔵先の変更によって追跡が困難になってしまったケースがある。また、時代が下るなかで、新たに発見された地図も登場する。しかし、論稿で取り上げる世界図は、研究上の最も基礎的な情報であり、先行研究との対象や数の相違は、最初に説明があつてしかるべきであろう。四氏の研究はそれぞれ重厚で読み応えがあるものであるが、各研究の相互関係が理解しにくく、全体的な見取り図や現在の到達点がわかりづらい一因が、ここにあるだろう。

また、四氏の研究は、情報文の情報が分類の基準としての使用に留まっております。一般的な内容分析がほとんどされていない。もちろん、川村氏の研究のように、山口大学本の朱印船情報や交易関係記事を詳しく紹介し、朱印船情報の有無の背景を、地図の作成時期と関連させているような優れた考察もある。しかし、諸本の情報文の内容や相違を比較検証し、諸本の相互関係を解明したり、情報文の意義や成立背景を探ったりするような分析は、まだなされていない。勿論、これは地理学というより文献史学が取り組む課題であろう。黎明期には、参照できる諸本の情報が限定されている困難な状況下にあつて、異なる諸本の断片をかき集めて、情報文の成立時期に迫った岩生成一氏のような研究もあつた。⁽¹⁵⁾個々の世界図の情報文を検討するだけでなく、諸本の情報文を全体として対照・分析する研究が、今後の追求すべき課題である。

二 情報文付き世界図諸本の現況

上述の問題点を克服し、課題を進展させるための予備的作業の一環と

して、これまで先行研究で取り上げられた情報文付き世界図が、現在どういう状況にあるかの確認調査をおこなった。調査したのは一三点で、実物が滅失したものや所在不明のものもあったが、模写本や写真で補い、先行研究が取り上げた世界図を、ほぼ網羅することができた。⁽¹⁶⁾以下、その概要を列記する。なお、() は本稿で用いる地図の略称、「」は、⁽¹⁷⁾は、当該地図を取り上げた先行研究の分類や番号である。

① 古河市歴史博物館所蔵「坤輿万国図(仮)」(古河市本)

〔中村Ⅲ、秋岡第二類、海野二類、川村A類〕

古河藩の家老をつとめ、学者・文人としても名高い鷹見泉石が所蔵していた世界図の一つである。彼の死後も鷹見家に伝えられ、その存在は比較的早くから学界にも知られていた。本図は、四氏の全てが取り上げている世界図である。中村論文、秋岡論文では當時の所蔵者にちなんで「鷹見安二郎氏所蔵世界図」としている。二〇〇三年に鷹見家より約一万点の資料が古河市に寄贈され、二〇〇五年に三一五三点(うち絵図・地図類七六八点)が、「鷹見泉石関係資料」として国指定重要文化財になった。一九九三年刊行の『鷹見家歴史資料目録』には「神輿万国図(仮題)」として掲載されている。⁽¹⁹⁾

紙本着色で、大きさは縦一一八×横一一五センチメートル。体裁は、上部は旧大陸を描く世界図、下部は「長崎ヨリ異国江渡海之湊口マテ船路積」と題する情報文である。情報文の上部に列挙されている地名は、上段(大明国・呂宋・安南・天竺などの大領域)と下段(南京・まんえいら・東京・かほしやなどの港市や国名)に書き分ける二層構造になっている。

情報文の末尾に「此繪圖寛永十四年丁丑八月於長崎書之。但 公方様へ上り候下書。元禄四辛未歲孟春中旬再模写之。天保七申晚春寫」と記

入があり、元禄四年(一六九一)一月中旬と、天保七年(一八三六)三月に書写され、後者が本図の制作年代とされている。製作年代が不明なものが多い情報文付き世界図のなかで、書写年代が明記されている本図は貴重である。また、『鷹見家歴史資料目録』では本図を鷹見泉石自身の書写としている。一八三六年当時の泉石は、大阪城代の任にあった藩主土井利位(天保五年四月一日〜天保八年五月一六日の在任)に従って大坂に詰めており、本図も大坂で書写したと考えられる。⁽²⁰⁾

② 横浜市立大学学術情報センター所蔵「寛永輿地図(仮)」〔中山久四郎氏旧蔵「万国図」(横浜市立大本)〕

〔秋岡第二類、海野二類、川村A類〕

横浜市立大学学術情報センター「鮎沢信太郎文庫」に収められている世界図である。旧蔵者は横浜市立大学の教授で第三代図書館長も務めた地理学者の鮎沢信太郎(一九〇八―一九六四)で、収められている古地図三二八点のうち的一点である。一九九〇年に刊行された『鮎沢信太郎文庫目録』に掲載されており、⁽²¹⁾現在、横浜市立大学学術情報センターのデジタルアーカイブ「横浜市立大学所蔵の古地図データベース」でも、細密画像がインターネット公開されている。

紙本着色で大きさは縦一一六×横一二二センチメートル。体裁は、古河市本と同じく、上部に旧大陸図、下部に情報文を配置している。情報文の列挙地名も、上段(大領域)と下段(港市・国名)の二層構造であるが、上段と下段の間に「ハの字」状に斜線を引き、所属関係を明示している。また、表題の「長崎ヨリ異国江渡海之湊口マテ船路積」の前に「輿地図」の三字が大書されているのが、他の諸本にはない本図の特徴である。情報文の最後には「此繪圖寛永十四年丁丑八月於長崎書之」とのみ記し、書写年代の情報はない。仮題の「寛永輿地図」は鮎沢氏が付

したものである。

海野一隆氏は、この横浜市立大本を東洋学者の中山久四郎氏の旧蔵とする。情報文の右下に「中山氏蔵書之印」という朱印が捺してあり、『鮎澤信太郎文庫目録』にも記載があることが、その根拠であろう。中山久四郎氏の世界図については同氏による紹介が、その著書『史学及東洋史の研究』に掲載されており、概要と情報文の全文を知ることができる。²²これによれば、世界図の体裁も「輿地図」の表題ではじまる情報文も、この横浜市立大本と同じであることが確認できる。

中山氏は著書のなかで、大正七年（一九一八）六月に浅草の文淵閣（朝倉屋書店）から購入したという本図の入手経緯を述べ、また、制作時期について、寛永年中するのは認定しなが、享保年代までは遡るのではないかと推定している。今回の実物調査では、本図の裏面に「文淵大正二年二月五日。寛永十四年、一六三七（以下読めず）」と記された文淵閣の本図入手に関係すると思われるラベルが確認の存在できた。

中山久四郎氏の世界図について秋岡武次郎氏は、昭和三十三年（一九五八）八月に中山氏に照会したところ、第二次世界大戦中の疎開やその後の混乱のために本図を紛失したという回答があったことから、終戦後に紛失したと考えていた。²³しかし、経緯は不明であるが、実際には鮎澤信太郎の所蔵となり、その後、寄贈を受けた横浜市立大学で氏の蔵書・古地図群の整理が進み目録が公刊されるに至って、貴重な歴史資料として再び日の目を見ることになったのである。

③ 東京大学史料編纂所蔵「山国神社所蔵異国渡海船路積図模写本」
（山国神社摸本）

〔原図の山国神社本の分類、中村Ⅳ、秋岡第二類、海野一類〕
まず、原図の「山国神社所蔵世界図」について述べる。所蔵者の山国

神社は、京都府京都市右京区京北（旧北桑田郡京北町）鳥居町に所在する神社で、中世の山国庄、近世の山国郷の鎮守として名高い。この地図は、川村氏を除く三名が取り上げるが、実物を調査したのは秋岡武次郎氏だけのようである。掲載写真もないため、秋岡氏の調査所見がこの図の唯一の情報であった。氏は、地図の左下の「此繪圖寛永十四年丁丑八月於長崎書之。但 公方様へ上り候下書。貞享二乙丑歳再写之」という文言から、貞享二年（一六八五）の写本と判断し、山国神社の所蔵となった由来は不明としている。また、貞享年間を思わせるかなり古い料紙に描かれ裏打ちされているとも述べており、地図の部分については、①の古河市本とほぼ同じであると記している。²⁴この原図は、海野一隆氏が平成二年（一九九〇）に同社に照会したところ、見当たらないという回答がきたことから、海野氏は「亡失」（所在不明）としている。²⁵川村氏が取り上げていないのは、このせいかもしれない。

だが、幸いなことに二〇〇四年から本格実施された山国神社文書の悉皆調査で、近世史料を収める文書箱の山論絵図類と同じ文書箱中にこの原図が現存することが確認され、刊行された報告書の目録に記載されている。²⁶また、東京大学史料編纂所にこの山国神社の世界図の模写本が所蔵されている。所蔵史料目録データベースでは、登録されている書名は「異国渡海船路積図 寛永十四年」〔請求記号〕模写一仁一七二、原蔵者は「山国神社」となっている。

この模写本は軸装、紙本着色で、地図の大きさは縦一九×横一二五センチメートル。体裁は、古河市本・横浜市大本と同様に上部に旧大陸図、下部に情報文を配置す。情報文の列挙地名も同じく、上段（大領域）と下段（港市・国名）の二層構造で、横浜市大本と同じ所属関係を明示する「ハの字」状の斜線がある。秋岡氏の指摘どおり、情報文の最後は「此繪圖寛永十四年丁丑八月於長崎書之。但 公方様へ上り候下書。貞

享二乙丑歳再写之」と記している。

軸の題簽に「異国渡海船路積図、寛永十四年、京都府、山国神社所蔵」とあり、また、裏面に添付された裏書きによれば、当時、史料編纂所掛補助嘱託として謄写部で模写を担当していた中尾勝徳²⁷⁾氏が、昭和九年（一九三九）六月に模写した旨が記されている。この模写本について言及した論稿は、今のところ未見である。

④ 山口大学附属図書館所蔵「万国惣図」（山口大本）

〔海野二類、川村A類〕

毛利家支藩の徳山藩三代藩主であった毛利元次（二六六七～一七九二）が所蔵していた世界図である。文芸・学問にも造詣が深かった元次は、その書屋を「棲息堂」と名付け、付属の文庫に多数の書籍等を蒐集した。²⁸⁾三万余点の蔵書の内、宮内庁書陵部に収納されたものを除く八二〇八点が、一九六四年と一九六七年に山口大学に寄贈されて「棲息堂文庫」となった。一九八六年に刊行された『棲息堂文庫目録』²⁹⁾には、歴史部門の地誌・紀行の項に「万国惣図」掲載されている。

紙本着色で、大きさは縦一一四×横一二一センチメートル。体裁は、古河市本、横浜市立大本、山国神社模本とほぼ同様で、古河市本と同じく地名の上下関係を示す「ハの字」斜線は引かれていない。

情報文の末尾に「此繪圖寛永十四年丁丑八月於長崎書之。但 公方様へ上り候下書。」と書かれている。古河市本や山国神社模本に見られる書写年代はない。絵図の右上には「徳山毛利家蔵書／明治二十九年改済」の朱印が捺してあり、朱印の番号欄「第一 番／其 冊」に、「六百六十一」と「一」という墨書がある。また、折り畳んだ時に最上面にくる裏面に「萬國惣圖」と記されている。

本家筋の萩藩との対立事件に対する幕府の裁定で、正徳六年（一七一

六）四月に毛利元次は出羽新庄藩に護送・幽閉され、その時の病がもとで享保四年（一七一九）十月に死去した。彼の書籍蒐集も正徳六年春に終わっており、³⁰⁾本図の書写の下限は、この頃に求められるだろう。

⑤ 神戸市立博物館所蔵「蒼蔵世界図」（神戸市本A）

〔海野二類、川村A類〕

神戸市立博物館の「南波松太郎旧蔵コレクション」に所蔵される二点の情報文付き世界図のうちの一点である。同館の『南波松太郎旧蔵コレクション』目録³¹⁾では、名称が「蒼蔵世界図」（世界図〇一の六）、摘要には「手書手彩、旧大陸図、天明一年写」とあり、大きさは縦一一三・二×横一九九・五となっている。名称の「蒼」は「華」や「花」の異体字で、「華蔵」は仏教用語の「蓮華蔵」あるいは「蓮華蔵世界」の略語である。³²⁾

体裁は、古河市本、横浜市立大本、山国神社模本、山国神社模本とほぼ同様で、上部に旧大陸図、下部に情報文をかき分けている。但し、地名の二層構造がかなり崩れ、上段にあるべき大領域名が下段の港市・国名の中に落ちてきている。

情報文の末尾に「此繪圖寛永十四年丁丑八月於長崎書之。但 公方様江上り候写、宝永六巳丑歳三月念一書寫。天明元年歳次辛丑季冬上五図写。盖得湯華芳題曰蒼蔵世界図、不知傳於何人。」という記載があり、第一次書書写が、宝永六年（一七〇九）三月二十一日、第二次書書写が天明元年（一七八二）十二月五日であることがわかる。第二次書書写の際には伝来は不明となっている。他の諸本で「下書」となっている部分がこの本のみ「写」になっていることが注目される。第二次書書写の際に、湯華芳なる人物が「蒼蔵世界図」という題を提案しており、この名は彼の解釈に由来するらしい。この人物は、長崎に來航・在留した清国人と思

われる。詳細は未詳であるが、この書写が長崎で行われた可能性がある。また、末尾下方に、南波コレクションに入る前の所蔵者を知る手がかりとなる「岡氏図書之印」の朱印が捺印されている。

海野氏は、神戸市博物館特別展図録『古地図の世界』⁽³³⁾の本図図版を出典としており、川村氏も海野論文に拠って実物の調査はおこなっていないようである。

⑥ 白杵市歴史資料館所蔵「異国之図」（白杵市本）

〔海野一類、川村B類〕

白杵藩主稲葉家旧蔵の情報文付き世界図で、同じ内容の地図が二点存在する。白杵市に寄贈された稲葉家旧蔵資料は、古文書、典籍、絵図など数万点にのぼるが、このうち絵図と関連史料一五〇五点が「近世絵図資料群」として県の重要文化財に指定され、白杵市はその一部の画像と書誌情報を「白杵市歴史資料データベース」でインターネット公開しているが、この二点も「異国之図」という題名で公開されている。秋岡武次郎氏や中村拓氏の論稿には未掲載であるのは、稲葉家旧蔵資料の整理作業が進み存在が確認されたのが、比較的近年であるためだろう。

共に紙本着色で、大きさは整理番号三六七が、縦一一七×横一四二センチメートル。同三六八が、縦一一六×横一三七センチメートルである。体裁は、上部に旧大陸を描いた地図、下部に「長崎ヨリ異国江渡海之湊口マテ船路積」で始まる情報文を持つが、絵図に赤道線や帆船を描かず、情報文に朱印船情報や年紀を書かない。〔海野二類、川村A類〕タイプの古河市本・神戸市本Aとは異なる〔海野一類、川村B類〕タイプの地図である。

この二点は法量がやや異なるものの、絵図も情報文も全く同内容である。但し、整理番号三六八の絵図には、大陸部分の彩色の一部に三六七

では使用されていない金箔が使われている⁽³⁴⁾。また、情報文も、三六七に見られる文字列のたわみが三六八では見られないなど、三六八のほうが丁寧に書かれている。これらのことから、はじめに写されたのが三六七で、それをさらに美麗に清書したのが三六八という推定が可能である。

⑦ 国立国会図書館所蔵「長崎ヨリ異国江渡海之船路積絵図」（国会図書館本）

〔中村I〕

先行研究の中で、中村拓氏しか取り上げていない情報文付き世界図がある。上野国立図書館所蔵の地図で、「二四〇、七」というラベル番号と、「従長崎至異国渡海船路積絵図」という外題を持ち、冒頭が「日本長崎ヨリ異国へ渡海之湊口マテ船路積 但三十六町一里ニシテ」となっているものである⁽³⁵⁾。上野国立図書館は、戦前の帝國図書館であり、一九四九年に国立国会図書館に統合された。現在、国会図書館の古典籍資料室に「長崎ヨリ異国江渡海之船路積絵図」と題する書写絵図が架蔵されている（請求記号二四〇―七）。これは「古城及古戦場図」という一連の筆写絵図集の第三二冊にあたる。

紙本着色で、大きさは縦一一八×横一六七センチメートル。体裁は、白杵市本とほぼ同じであるが、情報文の書き部分は、ひらがなでなくカタカナになっている。また、複数の港市・国名を統合する大明国、安南国、天竺国などの大地域名は、これまでの諸本が、港市・国名の上部に配置される二段構造になっているのに対し、統合される港市・国名の冒頭に配置されているという特徴を持つ。〔秋岡第一類、海野一類、川村B類〕と同じタイプの世界図であるが、他の三者が取り上げていない理由は不明である。

⑧ 総持寺所蔵「南瞻部世界図」総持寺（総持寺本）

〔秋岡第一類、中村 V、海野一類、川村 B 類〕

横浜市鶴見区鶴見町にある曹洞宗の大本山総持寺が所蔵する情報文付き世界図である。総持寺は、長く石川畠輪島市門前町にあったが、一八九八年の火災で伽藍が灰燼に帰し、一九〇七年に能登に別院（総持寺祖院）を残して現在地に移転した。しかし、一九一四年に東京帝国大学史料編纂所で開催された史料展覧会に出品された際には、「能登総持寺別院蔵」となっており、横浜の総持寺に移されたのは、その後のことと考えられる。このように、早くから学界で紹介されたため、先行研究では四氏とも本図を取り上げている。

東京大学史料編纂所には、この総持寺本の台紙付写真（請求記号）台紙付写真―五七三―七〇八〇）と模写本（請求記号）模写―保―二四一）が所蔵されており、これらによって調査をおこなった。上部に旧大陸図、下部に情報文という体裁は、白杵市や国会図書館本と同じだが、地図が四角形の枠線（輪郭線）で囲まれており、線の上に「南瞻部世界図」の六字の表題が大書きされている。台紙付写真には台紙の右上に「南瞻部世界図」、右下に「武蔵鶴見町総持寺所蔵」、左下に「原寸、縦四尺三寸一分、横四尺六寸三分」と書かれている。秋岡氏は大きさを縦一三〇四×横一四〇二ミリとしているので、ほぼ等しい。写真では本図は軸装で、裂地で表装されている。また、本図は長崎の曹洞宗寺院皓台寺から総持寺に移されたとされる³⁷⁾。

本図の情報文は、白杵市本や国会図書館本とほぼ同じであるが、多加佐古へ日本から持ち渡る物が書かれていないなどいくつか脱落がある。また、シヤム口をシヤツロ、珊瑚珠を真珠とするなど書き写しの間違いもみうけられる。大明国、安南国、天竺などの大地域名の下に港市・国名を配する二重構造が完全に崩れ、「呂宋国内」や「天竺之内」が、本

文中に埋没しているなど、これまでの諸本に比して錯誤が多い。そして、情報文の末尾に「大ノ字ノ有所ハ、南ノハテ何里何海トモシラズクラキ所ニテ、土ハ泥ニテ船等吹放テハ出ル事ナラシ也。大明国ヨリ一万八千三百八十里余迄ハ船向寄アレド、其ノ先ハ方角不知。」という一文が附加されている。この一文があるのが、後述の佐賀県本だけである。しかも佐賀県本には、絵図の下部の無名の大陸の右に「大」の字が書かれているのに対し、本図では「大」の字は見当たらない。以上から、本図の制作は同系統の情報文付き世界図のなかでも、かなり下るのではないかと考えられる。

⑨ 佐賀県立図書館「世界図」（佐賀県本）

〔海野一類、川村 B 類〕

佐賀県立図書館の「蓮池鍋島家文庫」に所蔵されている情報文付き世界図である。同館の「古地図・絵図データベース」で画像と書誌情報がインターネット公開されている。それによれば、資料名は「世界図」（請求番号・全〇一五一）、大きさは縦八七×横一六〇センチメートル、彩色手書で、作成時期は「江戸後期」となっている。資料名は地図の裏書きから採られたという。「蓮池鍋島家文庫」は旧佐賀藩における三支藩の一つであった蓮池鍋島家所蔵の藩政資料を中心とした約二六九二件の資料群である。元禄一六年から慶応二年までの請役所日記を中心に御案内帳、家事局日記、御蔵方諸控、会計局諸控、科人帳などがある。初代藩主直澄以来歴代藩主の書状・書類が多数含まれているという。同館では、一九七三年に『佐賀県立図書館所蔵古地図・絵図録』、一九八五年に『蓮池鍋島家文庫目録・倉永家資料目録』を刊行しており、この世界図は前者に載っている³⁸⁾。秋岡氏や中村氏が取り上げていないのは、このような近年の公開体制の進捗のなかで、この世界図も知られるように

なったからだろう。

体裁は他本とことなり、旧大陸図と情報文を区分せず、旧大陸図の下方に情報文が書き込まれている。そのため、東南アジア部分の情報文は一段低く書かれ、アフリカ大陸部分では左右に分かれて書かれている。

情報文の内容も他本とは大きく異なる特徴がある。まず、「まんえいら」と「かほちや」の日本から持ち渡る物の部分が欠落している。また、「跛趾」の条は所定の箇所に書かれず、後ろから二番目に書かれている。書き漏らしに後から気づいたのであるうか。そして、最大の特徴は、他本が最末条にしているオランダの後に、「遍るつう」と「いるあにや」の条、そして最末尾に、総持寺本と同じ「大の字」に関わる記述を加えていることである。と「いるあにや」は絵図中に名前が見え、「遍るつう」はアフリカ中央北部、「いるあにや」はイラン地域に描かれている。また、「大」の字も、下方の無名大陸の右側にその名が見える。該当条の情報文は、実態を反映しているとは思えないが、なかなか興味深い内容である。⁽³⁹⁾ 総持寺本と同様、諸本のなかでも時代が下るものと思われる。

⑩ 神戸市立博物館所蔵「旧世界図（仮）」（神戸市本B）

〔秋岡第一類〕

神戸市立博物館の「南波松太郎旧蔵コレクション」に所蔵される情報文付き世界図である。同館の『南波松太郎旧蔵コレクション』目録では、名称が「旧世界図（仮）」（世界図○一の五）、手書手彩で大きさは、縦一一三×横一一六センチメートル、時期は寛永期となっている。体裁は、上部に旧大陸図、下部に情報文をかき分けており白杵市本や国会図書館本と同様のグループである。

詞書の内容であるが、本図は前述の佐賀県本より、さらに省略が多く、跛趾、占城かほしや、ばたん、まらか、ごわの各条が丸ごと、しゃむろ

条の日本から持ち渡る物が書かれていない。その一方で、佐賀県本のよ
うな新たな条文は加わっておらず、わずかにしゃむろから来る物の末尾
に、省略されたかほしやの「孔雀尾、ハンニヤ、烏金、蠟蜜、黒砂糖」
が混入しているのみである。不注意による脱落ではなく意図的な省略（中
抜き）のように思われる。

南波松太郎氏蒐集のこのタイプの世界図にては、秋岡氏だけが「第一
類」（海野 一類、川村 B類に相当）に分類している「南波松太郎氏所
蔵世界図」がある。⁽⁴⁰⁾ 秋岡氏が兵庫県西宮市の南波氏旧宅で調査したもの
で「紙の大きさ縦七四五ミリメートル、横一一六〇ミリメートル」
となっている。縦の長さがことなるが、横は同じであり、秋岡氏が調査
したのは、この世界図の可能性が高い。先行研究の混乱の例として挙げ
た南波松太郎氏旧蔵（南波コレクション）の世界図の、秋岡氏と海野・
川村両氏の分類先が逆になっている問題は、秋岡氏がかつて調査した世
界図がこの神戸市本Bであり、海野氏や川村氏を取り上げたのが前出の
神戸市本Aであることに起因するものであろう。すなわち、同コレクショ
ン中には、二点の情報文付き世界図があるが、論者たちがそれぞれを別
の世界図を取り上げて論じたことよって生じた混乱だったのである。⁽⁴¹⁾

⑪ 石橋五郎氏所蔵「世界図」（石橋氏本）

〔秋岡第一類、中村Ⅳ〕

京都帝国大学教授であった地理学者石橋五郎氏が所蔵していた情報文
付き世界図である。一九三二年に秋岡武次郎氏が写真に撮影したことか
ら、学界に知られることになり、藤田元春氏が紹介論文を書き情報文も
翻刻している。⁽⁴²⁾ この論文の掲載号には、冒頭口絵にこの世界図の写真も
掲載されている。秋岡氏によれば、大きさは、縦七六×横一七〇センチ
メートル。多くの諸本が旧大陸図の下に情報文の部分を貼り付けるのに

対し、本図は他本に比べて横長に描かれた旧大陸図の上方に、情報文が配されている。

情報文の内容は白杵市本、国会図書館本、総持寺本、佐賀県本、神戸市本と同系統であるが、省略された記述が目立つ。一方、琉球や都の嶋(宮古島)までの里教など独自の情報が見える。また、大明国、安南国、天然国などの大地域名の下に配された港市・国名と、その下の本文の間に乖離が見られる。大地域名と港市・国名の書き方は、後述する岡山県本や神戸市本などの屏風仕立ての世界図と、類似性を持っている。

秋岡氏によれば、一九四五年の西宮市の空襲で本図は焼失したという。海野氏や川村氏に取り上げないのは、そのせいであろうか。秋岡氏が撮影した写真の乾板が残されており、その後も数種の刊行物に掲載されている。⁴³⁾

⑫ 岡山県立博物館所蔵(妙覚寺寄託)『旧大陸図屏風』(岡山県本)

岡山県岡山市北区御津金川(旧御津町金川)にある日蓮宗妙覚寺が所蔵する情報文付き世界図屏風で、現在は岡山県立博物館に寄託されている。屏風は六曲半双で、大きさは、縦九七×横二七センチメートル。地図のみは縦八〇×横一六二センチメートル。旧大陸を描いた絵図を中心に、その左右に情報文を配している。

他本とは違い屏風仕立てなので、独自の特徴が多い。まず、情報文の部分が縦長のため、大明国、安南国、天然などの大地域名の下に国名(地域名)を配する二重構造が顕著で、本文を含めた三者が、直線で結ばれている。見栄えも良くかつ自然であり、二重構造は、本来、このような屏風仕立てのためのものだった可能性がある。逆に本文のほうは、決められたスペースにおさまるように、短縮された表現が多いが、佐賀県本や神戸市本のような省略はない。また、文を限定されたスペースに納め

るためか、他本では「〇〇の道具」と列挙している部分を「萬器物」という一語でまとめたり、「候」「也」など文末の助動詞を略して動詞止にしたりするなどしている。

この世界図屏風については、発見の経緯を記した水野恭一郎氏⁴⁴⁾と、情報文を翻刻し、登場する物産の考証を試みた白井洋輔氏の論稿がある。⁴⁵⁾

⑬ 堺市博物館(河盛氏寄託)『世界図屏風』(堺市本)

堺市中之町の旧家であった河盛氏が所蔵していた情報文付き世界図屏風である。早くから存在が知られていたため、四氏が共通して取り上げている。日本図屏風とセットになっているところに本図の特徴がある。屏風は四曲で、大きさは、縦一一四×横二七センチメートル。地図のみは縦九〇×横一五四センチメートル。旧大陸を描いた絵図を中心に、その左右に情報文を配している。情報文の体裁・内容・書き方は、岡山県本とほぼ同じであるが、岡山県本よりもスペースが縦長なため、一港市一国の情報を一行におさめている字配りが特徴的である。

なお、本図は一九三二年一月一六日の昭和天皇大阪行幸に際して、天覧に供された。その時に見映えを美麗にするための修復がおこなわれたという。⁴⁶⁾

三 調査結果から見えてくるもの

まず、今回現状を確認し内容を調査した情報文付き世界図十三点⁴⁸⁾を、川村氏の分類を援用してグループ分けすると、①古河市本、②横浜市立本、③山国神社摸本、④山口大学本、⑤神戸市本AがA群(朱印船情報と作成年月がある)、⑥白杵市本、⑦国会図書館本、⑧総持寺本、⑨佐賀県本、⑩神戸市本B、⑪石橋旧蔵本、⑫岡山県本、⑬堺市本が、B群(朱印船情報と作成年月がない)となる。但し、同じB群でも、屏風仕

表 調査した情報文付き旧世界図の現状・分類と先行諸研究との関係

	現 状	その他	藤田 分類	中村 1964	秋岡 1988	海野 1993	川村 2003
① 古河市本	実物が存在		A	Ⅲ	第二類	二類	A
② 横浜市立本	実物が存在	中山久四郎氏旧蔵	A		第二類	二類	A
③ 山国神社本	所在不明	模本あり	A	Ⅳ	第二類	二類	
④ 山口大学本	実物が存在		A			二類	A
⑤ 神戸市本A	実物が存在		A			二類	A
⑥ 白杵市本	実物が存在		B1			一類	B
⑦ 国会図書館本	実物が存在		B1	I			
⑧ 総持寺本	実物が存在	写真本・模本あり	B1	V	第一類	一類	B
⑨ 佐賀県本	実物が存在		B1			一類	B
⑩ 神戸市本B	実物が存在		B1		第一類		
⑪ 石橋氏本	空襲で焼失	写真あり	B1	Ⅵ	第一類		
⑫ 岡山県本	実物が存在		B2		第一類	一類	B
⑬ 堺市本	実物が存在		B2	Ⅱ	第一類	一類	B

立ての⑫岡山県本と⑬堺市本は、前述のように体裁文体・文言に独自の特徴が多いため、⑦⑪と区分したほうが良いと考え、⑦⑪をB1、⑫と⑬をB2としてみた。以上の結果と先行研究の調査・分類の関係を整理すると表のようになる。

次に、一三点の情報文を俯瞰して気づくことを何点かあげておきたい。これらの情報文には、全てが「漳州」を「障州」と表記しているように、共通したベースがあることが伺える。だが、A群とB群には、先行研究が指摘する朱印船情報と作成年月の二点の他にも、いくつか特徴的な違いも認められる。

A群に共通する特徴としては、助詞や助動詞のなど細かな点を除けば、五点ともほぼ同文であること、書止文言に「御座候」や「申候」が多く、全体として文体が丁寧であることが挙げられる。また、共通して挙げられている貿易品名がB群よりも一〇点ほど多く、A群だけの特徴的な表現や表記もある。

一方、B群に共通する特徴としては、「えんげれす」または「おらんだ」の条に、A群にはない「但ふらんざと申す国の内」の一文があることや、B群のみに見られる品名が四点あることがある。しかし、B群の最大の特徴は諸本間の差異が大きく、各本の概要でも記したように、大幅な省略、あるいは新補も見られることである。A群ではほとんど維持されていた大領域と港市・国名の二層構造が崩れているものが多い。

朱印船情報や成立年月の有無を合わせて考えると、A群のほうは寛永十四年八月に書かれたとする「公方様へ上り候下書」という具体的な対象を忠実に写しとろうとする志向が強いのに対し、B群のほうは、情報に対する関心や紙幅に応じて、情報文を増減したり改変したりできるA群より抽象性の高いものと認識されていたのではないだろうか。

では、A群とB群の前後関係であるが、海野氏がB類（海野氏の一類）

のほうが先行し、A類（海野氏の二類）が朱印船情報など部分的に増補したとすのに対し、川村氏は逆⁽⁵⁵⁾にA類が先行し、B類は朱印船情報を削除したという見解を示している。川村説は主として地図上の地理情報がA類よりもB類のほうが新しいことを根拠にしているが、A群とB群の情報文の比較からも、この説を補強できる。ここで注目するのは、「まんえいら」（マニラ）からの渡来品の区分である。

〔A群〕（ここでは古河市本による）

他国之賣物、糸、巻物。南蛮物ニハ、らしや、狸々皮、はあの。

地ニ御座候物ハ、鹿ノ皮、せうりうきうと申すわう、白黒砂糖、

水牛ノ角、藤也。葡萄酒、印子のおとめゆひかねの類、さんこし

ゆも参申候へ共、地ニハ無御座候。奥南蛮物にて御座候。

〔B群〕（ここでは白杵市本による）

大明之売物、糸、巻物。南蛮物には、らしや、狸々皮、はあの。

地ニ御座候物ハ、鹿ノ皮、せうりうきうト申蘇木、白砂糖、黒砂

糖、水牛ノ角。藤、他国之もの、葡萄酒、さんこしゆ、色々参申

候。

A群は「他国の売物」、「南蛮物」、「地ニ御座候物」と区分しているが、最後に、さらに葡萄酒から珊瑚珠を付加し、これらは「地ニハ無御座候。奥南蛮物にて御座候」と説明しているのに対し、B群では「大明の売物」、「南蛮物」、「地ニ御座候物」、「他国の物」と、葡萄酒から珊瑚珠を「他国の物」にまとめ、冒頭を「大明の売物」としている。⁽⁵⁶⁾この相違は、物品の付加によって回りくどくなったA群の記述を、B群がすっきりさせるために改変したと見るのが自然であろう。この点からも、A群のほうが、B群に先行することがわかる。

A群の情報文の成立時期については、川村氏も含めてこれまでの諸研究や目録類は、末尾に書かれた寛永十四（一六三七）年八月を実際の作成

年月としてきた。しかし、岩生氏は当時参照可能だった台湾の記述によって、情報文の上限をスペイン人の淡水進出の一六二六年とすると共に、朱印船記述が濱田弥兵衛事件による寛永五（一六二八）年以降の途絶に言及していないことから、利用された資料の下限がこの年まで遡る可能性に言及している。⁽⁵⁷⁾

今、岩生氏が利用できなかった全情報文を俯瞰すると、年記のある朱印船の記述は「まんえいら」の「子ノ年台渡海御法度ニ罷成申候」、つまり、一六二四年からのマニラ渡航禁止に触れているのが最後で、以降の各地への渡航に関する記載がない。一九三七年まで一〇年以上の空白があり、また、一九三五年の朱印船渡航全面禁止についての言及もない。情報文にはこれ以外に一六三七年成立に矛盾する記載は、今のところ見あたらないので断定することはできないが、一六三七年を無前提に成立時期とすることは慎重であるべきで、仮託も含めた様々な可能性に配慮する必要があるであろう。⁽⁵⁹⁾

なお、川村氏はB類の地図部分については、この群と同系統とされる下郷本・増田本屏風の地図と成立時期である承応年間（一六五二―一六五五）と同年代の成立の可能性に言及している。⁽⁶⁰⁾これが正しいとするならB群の情報文の登場も、少なくとも一六五〇年代以降ということが出来る。

一方、今回調査した二三点の間には、直接の書写（写し写された関係）ないと考えられる。相違の少ないA群の各本間にも、書き写す時点での単純な誤りや表記変更の範囲に収まらない相違があり、⁽⁶¹⁾B群に至っては、各本間の相違はさらに大きくなる。仮に情報文の原本を第一世代とするなら、これらの諸本は少なくとも第三世代以降のもので、単純な親子関係あるものはないと考えられる。このことは見方をかえれば、近世を通じて作成・転写された情報文付き世界図がいかに多かったかの証であろう。

今回、一三点の情報文が全文明らかになったことで、今後、どのよう

なことが期待できるのであろうか。たとえば情報文を俯瞰することで、挙がっている品名の考証にも新しい光をあてることができる。一例を示そう。岡山県本で貿易品名の考証をおこなった白井氏は南京の条にある「曲々花入」を曲物の花入とされた。⁽⁶²⁾しかし、他本では、「曲輪之類」(A群の諸本)、「くりくりの類」(B1の諸本)、「くりくり」(堺市本)と出てきており、「曲々」は「くりくり(ぐりぐり)」と読むべきことがわかる。「ぐりぐりの類」は、蕨形の連続した渦巻文様を彫り出した漆塗の堆朱や堆黒の工芸品のこと⁽⁶³⁾で、ここでは一つ前の「堆朱」と合わせて「堆朱ぐりぐりの類」と読むべきであらう。

おわりに

情報文付き世界図は、日本における一六世紀後期からの南蛮系世界図屏風作成の流れの上に、往来する朱印船や来航唐船・南蛮船⁽⁶⁴⁾によって長崎に集積されたユーラシア東部を中心とする海域世界の情報を合体させて、再構成したものと位置づけることができる。

黎明期の歴史家たちが注目したように、ここには当該期、特に一六二〇年代を中心する海域アジアの多種多様な鮮度の良い諸情報が詰め込まれている。これらを利用することで、貿易や諸港市・諸王権の新たな側面が明らかになるだけでなく、戦争や軍事技術、美術工芸や染織・薬学など幅広い分野で新知見が獲得できるのではないだろうか。⁽⁶⁵⁾今後の学際的・多言語的な研究の新展開が待たれるところである。

〔註〕

(1) 本稿で扱う世界図群の主な先行研究としては、次のものがある。

【大正】昭和初期の研究】

内田銀蔵「三百年前日本と台湾との経済的関係に就きて」(『史林』二二二、

一九一七年。

中山久四郎「長崎古寫の萬國圖」(同『史学及東洋史の研究』賢文館、一九三四年、初出一九一九年)。

牧野信之助「世界圖並に南蠻人渡來圖屏風に就て」(大阪朝日新聞社編『開國文化』大阪朝日新聞社、一九二九年)。

藤田元春「黎明期の世界地図」(『歴史地理』三一一、一九三三年)。

岩生成二「石橋博士所蔵世界図年代考」(『歴史地理』三二一六、一九三三年)。

【戦後の研究】

秋岡武次郎「桃山時代江戸時代初期の世界図屏風等の概報」(『法政大学文学部紀要・地理学』四、一九五八年)。

中村拓「南蛮屏風世界図の研究」(キリシタン文化研究会編『キリシタン研究』九、吉川弘文館、一九六四年)。

秋岡武次郎「世界地図作成史」(東海企画出版編『秋岡コレクション』世界古地図集成第一冊)河出書房新社一九八八年)。

海野一隆「南蛮系世界図の系統分類」(『論集日本の洋学』I)清文堂出版、一九九三年)。

川村博忠「近世日本の世界像」ペリカン社、二〇〇三年。

【図版集成と解説】

織田武雄・室賀信夫・海野一隆編『日本古地図大成 世界図編』(講談社、一九七五年)。

室賀信夫「日本古地図大成・世界図編・解説」(講談社、一九八五年)。

(2) 註1の諸研究では、この掲載文は「説明文」(中山氏)、「附載文言」(牧野氏)、「詞書」(岩生氏)、「付属文」(秋岡氏)、「貿易記事」(海野氏)などと呼ばれてきた。だが、「説明文」「附載文言」「付属文」は地図に対する従属的なニュアンスがあり、また、現代の用法では、一般的に「詞書」は和歌や絵巻物、「記事」は新聞や雑誌について用いられることが多い。本稿では、この記述文が学術的検討に耐えうる豊富な情報を内包した独自の歴史資料であり、また海野一隆「南蛮系世界図の系統分類」(前掲・二三頁)が述べるように、この記述内容を視覚的に補助するために旧世界図が添えられたという見方も可能であるという立場から、この記述文

を「情報文」、または、内容を加味する場合は「貿易情報文」と称することにする。

- (3) 岩生成一「石橋博士所蔵世界図年代考」(前掲)などによれば、近世には「洋記」、「日本異国通宝書」など、この貿易情報文だけを抽出した諸本も作成されているが、これらの地図を伴わない諸本については、紙数の関係もあって本稿では取り扱わず、後考を期したい。なお、「洋記」については、岡美穂子「朱印船貿易と日本町」(歴史学研究会編『世界史料四』岩波書店、二〇一〇年)、朝尾直弘『万国図』と「洋記」・朱印船が舶載した日本銀」(『住友史料館報』四六、二〇一五年)を参照のこと。

- (4) 例えばタカサゴ(鶏頭菴・多加佐古)条について、内田銀蔵「三百年前日本と台湾との経済的関係に就きて」(前掲)は、「文簡にして盡さず」と雖、臺灣貿易の性質一讀して直ちに察知せらる、「岩生成一」石橋博士所蔵世界図年代考」(前掲)は、「頗る簡單なり」と雖も、當時臺灣を中心とする国際関係、日本人の臺灣貿易の性質を、最も明確に且つ直截に把握した文字である、「當時海外渡航貿易を自ら自ら経験した者でなければ、記述しえない、極めて生々しき記録である」と、評している。

- (5) 註1「大正・昭和初期の研究」の諸論考参照のこと。特に、ここに記載された貿易情報について藤田元春「黎明期の世界地図」(前掲)は「類例の少ない稀観のもの」、岩生成一「石橋博士所蔵世界図年代考」(前掲)は、「當時の貿易の実情の機微に触れている」などと述べている。

- (6) もちろん、後述するように岡山県本や山口大学本などの個々の世界図については、情報文の解説や分析をおこなった論稿がある。

- (7) 海野一隆「南蛮系世界図の系統分類」(前掲)。

- (8) 註1および註32・44・45・47参照。

- (9) 中村拓「南蛮屏風世界図の研究」(前掲)、二三〜二四頁。

- (10) 秋岡武次郎「桃山時代江戸時代初期の世界図屏風等の概報」(前掲)、二八〇〜二八二頁。

- (11) 秋岡武次郎『世界地図作成史』(前掲)。同書は一九七五年に逝去した秋岡氏の遺稿である。一九五八年の論文を増補したものであるが、書中

の所在情報などは一九七五年までのものであるという(『世界地図作成史』の「あとがき」参照)。

- (12) 海野一隆「南蛮系世界図の系統分類」(前掲)、一五頁。なお、海野氏は地図の特徴から伊藤次郎左衛門所蔵世界図を含めた二一点を取り上げるが、この伊藤次郎左衛門本には情報文がないため、本稿ではカウントしなかった。

- (13) 川村博忠「近世日本の世界像」(前掲)、七〇頁。なお、川村氏は、A類が海野氏の一類、B類が二類に対応しているように記述しているが(例えば同書五五頁)、実際の対応関係は、川村氏のA類は海野氏の二類、B類は一類と逆転している。

- (14) 例えば、南波松太郎氏旧蔵(南波コレクション)の世界図は、秋岡氏と海野・川村両氏を取り上げるが、分類先が逆になっている。後述の実物調査の結果、これは同コレクション中の異なる二点の地図を、両者が別々に取り上げていることに起因することが判明した。

- (15) 岩生成一「石橋博士所蔵世界図年代考」(前掲)。

- (16) この調査は、東京大学史料編纂所一般共同研究課題(二〇一六年度)「異国渡海船路積」と「坤輿万国全図」系世界図の研究」と、東京大学史料編纂所画像史料解析センター、プロジェクト共同研究「世界図屏風の研究」(二〇一七年度)の一環として行われた。調査形態は、所蔵先での実物調査九件(古河市本、横浜市大本、山口大本、神戸市本A、白杵市本、国会図書館本、神戸市本B、岡山県本、堺市本)、東京大学史料編纂所所蔵の写真本・模写本による調査二件(総持寺本、山国神社本)、インターネット公開のデジタル画像による調査一件(佐賀県本)、出版物掲載写真による調査一件(石橋氏本)である。

- (17) 秋岡氏の分類は、『世界地図作成史』(一九八八年)のほうを採用した。

- (18) 例えば、牧野信之助「世界圖並に南蠻人渡來圖屏風に就て」(前掲)、二九〇頁。

- (19) 古河歴史博物館編『鷹見家歴史資料目録』(古河歴史博物館調査報告書第1集)古河市教育委員会、一九九三年、四〇七頁。

- (20) 泉石は同年三月二五日に江戸に向けて大坂を出立しており、書写はそ

れ以前であろう。古河歴史博物館編『鷹見泉石日記…第三卷…天保七年
—天保八年』吉川弘文館、二〇〇二年、三〇五頁。

- (21) 横浜市立大学図書館編『鮎澤信太郎文庫目録』横浜市立大学図書館、
一九九〇年、九五頁。

- (22) 中山久四郎『史学及東洋史の研究』(前掲)、二二二〜二一九頁に、大
正八年(一九一九)に書かれた「長崎古寫の萬國圖」と題する史料紹介
を第十五章として掲載している。

- (23) 秋岡武次郎『世界地図作成史』(前掲書)、八二頁。

- (24) 秋岡武次郎『世界地図作成史』(前掲)、八一〜八二頁。

- (25) 海野一隆「南蛮系世界図の系統分類」(前掲)、七〇頁。

- (26) 坂田聡編『中世後期から近世における宮座と同族に関する研究…主に丹
波国山国荘地域を例に』(平成一七年度〜平成一五年度科学研究費補助金・
基盤研究(C)研究成果報告書(課題番号一七五二〇四四九)、二〇〇八年)、
九五頁の目録番号一六四号(通番三二六)文書。標題が「(絵図)日本
長崎ヨリ異国江渡海之湊口マテ船路積、形状は「絵図」で、備考に「絵
図下部奥書「此絵図寛永十四年(丁丑)八月於長崎書之但、公方様へ上り
候下書頁享二(乙丑)歳再写之」とある。この調査と目録作成について柴
崎啓太「山国神社文書解題」(同書八〇〜八二頁)に詳しい。なお、報告
書の内容については前川圭一郎氏より、また、原図の現状については坂田
聡氏より御教示を受けた。

- (27) 東京大学史料編纂所編『東京大学史料編纂所史料集』東京大学出版会、
二〇〇二年、四〇一頁。

- (28) 渡辺憲司「毛利元次文芸圈考」(『近世大名文芸圈研究』八木書店、
一九九四年)。

- (29) 山口大学附属図書館編『棲息堂文庫目録』山口大学附属図書館、
一九八六年。

- (30) 渡辺憲司「毛利元次文芸圈考」(前掲)。

- (31) 神戸市博物館編『神戸市立博物館蔵品目録 地図の部 1…世界図・日
本図・南波松太郎コレクション』神戸市健康教育公社、一九八四年。

- (32) 石田瑞麿『例文 仏教語大辞典』小学館、一九九七年。

- (33) 神戸市博物館編『受贈記念特別展 南波松太郎氏収集 古地図の世界』神
戸市健康教育公社、一九八三年、七九頁。

- (34) 実物調査に参加した共同研究員の鷲頭桂氏の指摘による。

- (35) 中村拓「南蛮屏風世界図の研究」(前掲)、九四頁。

- (36) 岩生成一「石橋博士所蔵世界図年代考」。岩生によれば、この展覧会の
解説では、本図の制作年代を一六世紀末より一七世紀としていたという。

- (37) 牧野信之助「世界圖並に南蠻人渡來圖屏風に就て」(前掲)、二九二頁。

- (38) 佐賀県立図書館編『佐賀県立図書館所蔵古地図・絵図録』佐賀県立図
書館、一九七三年、佐賀県立図書館編『蓮池鍋島家文庫目録・倉永家資

- 料目録』佐賀県立図書館、一九八五年。

- (39) これらについては後考を期したい。

- (40) 秋岡武次郎『世界地図作成史』(前掲書)、八一頁。

- (41) 註14参照。

- (42) 藤田元春「黎明期の世界地図」(前掲)。ただし、著者自身が述べてい
るように、原文に必ずしも忠実ではなく、また、「ふるねる」(アルネイ

- と「まろく」(マラッカ)の条の翻刻が脱落している。

- (43) 今回の調査では、秋岡武次郎『世界地図作成史』(前掲書)の図版V-
2を用いた。

- (44) 水野恭一郎「備前妙覚寺蔵『世界図屏風』について」『岡山史学』
三三、一九六三年。

- (45) 白井洋輔「岡山県重要文化財妙覚寺『世界図屏風』の研究」『岡山県立
博物館研究報告』二〇、二〇〇〇年。

- (46) 牧野信之助「世界圖並に南蠻人渡來圖屏風に就て」(前掲)、二七九頁。

- (47) 堺市博物館編『南蛮・東西交流の精華』堺市博物館、二〇〇三年。

- (48) なお、秋岡武次郎『世界地図作成史』(前掲)には、この他に第一類の
情報文付き世界図として、「尾島碩宥氏所蔵世界図」と「旧姫路藩主酒井

- 氏旧蔵世界図」が挙がっているが、前者は東京空襲で焼失、後者は古書
店に移り所在不詳という。

- (49) 但し、品名は①②④は全く同表記だが、③と⑤は天川の「さや、ちり
めん」を「紗綾、縮緬」とするなど、漢字表記が若干多い。また、占城

の朱印船記述の「権現様」が、④のみ「家康公」になっているのは意図的な書き換えと思われる。

- (50) 書止文言の数はA群が「御座候」が19、「申候」が45、43、「也」が3、2、であるのに対し、B群は「御座候」が10、0、「申候」が26、0、「候」が、11、0、「也・ナリ」が、27、2である。なお、B群は各本間のばらつきが大きい。

- (51) 共通してA群にあってB群にないのは、南京の「白砂糖」、まんえいらの「印子のおとめゆひかねの類」と「酒」（日本より持渡品、はかしなの「真壺、鹿之皮、せうりうきうのすわう、黒砂糖」、跣趾の「藤」、占城の「木綿嶋ノ類、さい角」である。

- (52) 天川の「戸香」（麝香）の表記や東京・跣趾で「ほつけん」（北絹）を大小に分ける「小ほつけん」「大ほつけん」など。

- (53) ⑥と⑩はこの一文がイギリス条に付くのに対し、⑦、⑧と⑪、⑬はオランダ条についている。

- (54) 天川の「色々巻物（之）類」、跣趾の「からかさ、鏡」、かほしやの「藤」など。また、南京・天川の「皿茶碗」に共通して「染付」が付くこともB群に共通する特徴である。

- (55) 川村博忠『近世日本の世界像』（前掲）、五五頁。

- (56) なお、「らしや、狸々皮、はあの」は、後段でえんげれす・おらんだの産品になっており、品名との対応からすれば「大明の売物」、「他国の物」、「地ニ御座候物」、「南蛮物」とすべきであっただろう。

- (57) 岩生成一「石橋博士所蔵世界図年代考」（前掲）、一〇～一一頁。

- (58) 渡航禁止の発令は前年（一六二三年）である。対外関係史関係総合年表編纂委員会編『対外関係史関係総合年表』吉川弘文館、一九九九年。

- (59) 占城の条では一六一二、一三、一四年の渡航を「前ノ子丑寅三ヶ年」と記している。二回りの後の子年は一六三六年であるので、この部分の成立は少なくともそれより前と考えられる。

- (60) 川村博忠『近世日本の世界像』（前掲）二六八頁、註27。

- (61) 例えば、福州と漳州の表記が③、⑤がそのままなのに対し、①は福州が「福荔」、②は漳州が「障荔」となっている。また前述のように④は他

本の「権現様」を「家康公」に改めるほか、縮緬を「縮面」、毛氈を「毛緬」とするなど独自の表記がある。また、他本より品名の漢字化が多い③と⑤でも、漢字表記される品名が各々異なっている。

- (62) 白井洋輔「岡山県重要文化財妙覚寺『世界図屏風』の研究」（前掲）

- (63) 日本国語大辞典第二版編集委員会編『日本国語大辞典』（小学館、二〇〇〇年）の「ぐりぐり」および「ぐり」の項参照。「ぐりぐり」の項によれば、室町時代の辞書『饅頭屋本節用集』や『黒本本節用集』ではこの「ぐりぐり」を「曲輪」と表記している。

- (64) えんげれす・おらんだ条に並ぶ毛織物名のうち「はあの」「ほるやんしや」「えごれこらすたまにや」のラテン語系の語は、これらがポルトガル人、スペイン人経由でもたらされた可能性を示唆する（共同研究代表の岡美穂子氏の指摘による）。一方で、情報文にはポルトガル・イスパニア本国の情報が登場しない。ここに集められた情報の経路や背後のネットワークの解明は、今後の重要な課題である。

- (65) 貿易品の中に銀が登場しないのも、この情報文の特徴である。これについては後考を期したいが、ここに列挙された物品とは質的に異なる貿易アイテムとして銀が機能していた可能性を示唆していると考えられる。

〔付記〕本稿は東京大学史料編纂所共同利用・共同研究拠点における一般共同研究課題（二〇一六年度）「異国渡海船路積」と「坤輿万国全図」系世界図の研究」と、東京大学史料編纂所画像史料解析センター・プロジェクト共同研究（二〇一七年度）「世界図屏風の研究」の成果の一部である。

【情報文翻刻編】

①〔古河市本〕

日本長崎ヨリ異国江渡海之湊口マテ船路積 但三拾六町一里也。

一南京 此所日本ヨリ御朱印船參候所ニテハ、無御座候。 三百里

彼地ヨリノ船、年々船日本江參申候。

一此所ヨリ白糸、縮緬、紗綾、南京緞子、其外巻物色々、皿茶碗、推朱曲輪之類、花入、何^{ニテモ}手之能物、白砂糖、葉種、書籍持來申候。

一日本ヨリ 彼地へ渡り申候物、銅、葉罐、水風呂。

大明国内 一福劔 右同前。 五百里

一此地ヨリ 來物南京同前。毛氈、水銀持參申候。

一障州 右同前。 六百里

一右同前。ひろうと此国ヨリ出申候。皿茶碗、白黒砂糖參申候。此国ヨリ出申候物者、何にてもあしき手の物也。

一天川 右同前。 八百里

一此所^ヲ南蛮人商賣之ため^ニ船か、りの嶋をかり住宅仕、大明之物を日本^江買來、又其身之國^ヘ買渡^シ申候。日本^江買來候物、印子、白糸、段子ノ類、さや、ちりめん、縮子、繻子、繻珍、紅糸、白まかい糸、毛氈、ひろうと、白黒木綿、鮫、水銀、「とうたん、針、唐ノ土、光明朱、葉種色々、广香、山帰來、はくま、こくま、しゃくま、」皿茶碗、白砂糖、蜜漬之類、其外南蛮物、天然^ニ物持來申候。南蛮人と申者、^ハ国々^ハ商賣^ニ參申候故、他國之物何にても買來申候。

一日本ヨリ 彼地^江持渡り候物、銅、所帶ノ道具、蒔絵之類、銅道具、

多加佐古

此所先年亥ノ年ヨリ初テ御朱印船參申候。

五百里

屏風、畳、ぬい薄染物之小袖。

一此所北ノ端たむついと申所ニ呂宋之南蛮人居申候。南ノ方たいわんと申^ル湊^ル日本人商賣^ニ參申候。おらんだも住宅仕居申候。大明^ニ近^ク御座候^ニ付、糸、巻物、此所^ニテ買申候。おらんだ居申候^ニ付、天然^ニ南蛮物も御座候。多加^ハ佐古之地^ニ御座候物、鹿皮^ハ込にて御座候。

一日本^ハ彼地^江持渡り申候物、銅、鉄、屋くわん其外日本物少つ、。但是^ハ多^ク加佐古地之者^江賣申候^ニため^ニて、無御座候。大明人^ニ賣申候^ニため^ニて御座候。

一まんえいら 此所、先年^ハ御朱印船參、子ノ年^ハ 九百七十里

渡海御法度ニ罷成申候。

一此所^ニ南蛮人城ヲ取居申候。大明人も城下^ニ商賣之ため居申候。

他國之^ニ賣物、糸、巻物。南蛮物^ニハらしや、狸々皮、はあの。

地^ニ御座候物、鹿皮、せうりう[」]きうと申すわう、白黒砂糖、水牛ノ角、藤也。葡萄酒、印子のおとめゆひ[」]かねの類、さん

こしゆも參申候へ共、地^ニハ無御座候。奥南蛮物^ニ御座候。

一日本^{ヨリ}持渡り申候物、小麦之粉、銅、鉄、所帶之道具、蒔絵ノ類、

扇子、「紙、かたひら、屋くわん、水風呂、小刀、はさみ、食物之類、酒。

一はかしな 此所御朱印船終渡海無之。 九百里

一此所^ニも南蛮人居申候。彼地^ハ買來候物、真壺、鹿ノ皮、せうりうきうの「すわう、黒砂糖。

一日本^{ヨリ}もち渡り申候物、まんえいら同前。

一か、屋ん 右同前。 七百四十里

一此所右同前。

安南国之内

一 東京 前々々御朱印船渡海仕候。 千三百里

一 此所分買来候物、小黄糸、小ほつけん、ほら綾、ほつけん、りんす、は、つむぎ、肉「桂、しゆくしや、うこん。

一 日本分持渡り申候物、銅、鉄、いわう、銭少、所帯之道具、屋くかん、水風呂、扇「子、からかさ、鏡。

一 跋趾 右同前。 千五百十里

一 此所分買来申候物、黄糸、大ほつけん、れうつめ、沈香、伽羅、さや鮫、黒砂「糖、蜜、こせう、金、藤。

一 日本分持渡り候物、銅、銭、やくわん、水風呂、かたひら、もめんぬのこ、扇、所帯道具。

一 占城 此所権現様御時、一とせ御朱印船渡海仕、其後 千三百里 渡海無之、前ノ子丑寅三ヶ年御朱印船參申候。

一 此所分買来り申候物、伽羅、鮫、木綿嶋ノ類、さい角。 日本分何にても少持渡り申候。小国にて御座候故、何にても商賣物無之御座候。

一 かほしや 前々々御朱印船渡海仕候。 千四百八十里

一 此所分買来候物、鹿皮、うるし、さうけ、蠟蜜、黒砂糖、水牛之角、さい角、檳「椰子、大風子、こせう、柄鮫、さや鮫、くしやくの尾、はんにや、うこん。

一 日本分持渡り申候物、銅鉄、いわう、しやうのふ、所帯之道具、扇、からかさ、屋くわん。

一 天竺之内 一しやむろ 右同前。 千八百二十里

一 此所分買来申候物、蘇木、鹿皮、から皮、さうけ、鮫、水牛之角、鉛、錫、竜腦、「きりんけつ、さらさ、もめん嶋の類、藤、さんこしゆ。

一 日本分持渡り候物、かほしあ同前。屏風、畳參申候。

一 ばたん 此所廿年以前ニ、御朱印船渡海仕候。 千七百六十里

一 此所分出申候物、こせう、鮫、さうけ。 其後渡海無御座候。 一 まらか 二千五百里

一 此所南蛮人船か、りのため住宅仕候。少し嶋崎也。此地分出申候「物、錫、鮫、にくつく、はかまはをりに成申候もめん嶋の類。

一 一ごわ 此所廿年以前ニ、一年御朱印船渡海仕候。 其後渡海無御座候。 三千六百五十里

一 此所右同前、南蛮人住宅、少の嶋崎にて御座候。此地分出申候物、あせんやく、木香、したん、あめんとす、はあさと申候葡萄酒、もめん嶋の類。

ふるねる 此所、御朱印船之渡海無御座候。 千七百五十里 一 此国分りゆのふ、ひやくたん出申候。日本分渡り候物、鉄。

まろく 此所、一とせ御朱印船渡海仕。 千五百里 一 此国分丁子出申候。此所おらんだと南蛮人と城を取住宅仕、年々せりあい合戦仕候。

しやわの国之内 一 此所、御朱印船渡海無御座候。 二千五百里 一 此所三拾里四方計おらんだしたかへ城を取、国々への手つかひ、又ハ「国々への物を買来、方々へ指渡申候。おらんだ集所之湊にて御座候。此国に「商賣もの無之候。

いんげれす 右同前 壹万千七百里

おらんだ 右同前 壹万千九百里

一 此所分參申候物、狸々皮、羅紗、はあの、らせいた、遍るさい、ころさい、「ほろらんしや、あるみさい、えげれたますこらにや、何にても毛お「りの類、ひいとのろの類、葡萄酒。

此繪圖寛永十四年^{丁丑}八月於長崎書之。但 公方様江上り候下書。

元禄四^{辛未}歲孟春中旬再模写之。

天保七申晚春寫。

②〔横滨市大本〕

輿地圖

日本長崎ヨリ異国江渡海之湊口マテ船路積 但三拾六町一里也。

一南京 此所日本ヨリ御朱印船參候所^{ニテハ}無御座候。 二三百里

彼地ヨリノ船、年々船日本江參申候。

一此所ヨリ、白糸、縮緬、紗綾、南京緞子、其外卷物色々、皿茶碗、推朱曲輪之^レ類、花入、何^{ニ而モ}手之能物、白砂糖、葉種、書籍持来申候。

一日本ヨリ彼地へ渡り申候物、銅、葉罐、水風呂。

大明国内

一福州 右同前。 五百里

一此地ヨリ、来物南京同前。毛氈、水銀持參申候。

一障^{マツ}笏 右同前。 六百里

一右同前。ひろうと此国ヨリ出申候。皿茶碗、白黒砂糖參申候。此国ヨリ出申候物者、何にてもあしき手の物也。

一天川 右同前。 八百里

一此所^南南蛮人商賣之ため^カ船か、りの嶋をかり住宅仕、大明之物を日本^江買来、又其身之^ハ國^ヘ買渡し申候。日本^江買来候物、印子、白糸、段子ノ類、さや、ちりめん、縮子、縮珍、紅糸、白まかい糸、毛氈、ひろうと、白黒木綿、鮫、水銀、^レとうたん、針、唐ノ土、光明朱、葉種色々、广香、山帰来、はくま、こくま、しゃくま、皿^レ茶碗、白砂糖、蜜漬之類、其外南蛮物、天竺物

多加佐古

此所先年^亥、年^初御朱印船參申候。

五百里

持来申候。南蛮人と申者^ハ国々^江商賣^ニ參申候故、他国之物何にても買来申候。

一日本ヨリ彼地^江持渡り候物、銅、所帶ノ道具、蒔絵之類、銅道具、屏風、畳、ぬい^{薄染}之小袖。

一此所北ノ端たむついと申所^ニ呂宋之南蛮人居申候。南ノ方たいわんと申^ホ、日本人商賣^ニ參申候。おらんたも住宅仕居申候。大明^近近く御座候付、糸、巻^ノ物、此所^{ニテ}買申候。おらんた居申候^ニ付、天竺^南南蛮物も御座候。多加佐古^ノ之地^ハ御座候物^ハ鹿皮^迄にて御座候。

一日本分彼地^江持渡り申候物、銅、鉄、屋くわん其外日本物少つ、。但是^ハ多加佐古^ノ地之者^江賣申候ために^テ、無御座候。大明人^ニ賣申候ために^テ御座候。

一まんえいら 此所、先年分御朱印船參、子ノ年分 九百七十里 渡海御法度^ニ罷成申候。

一此所^南南蛮人城ヲ取居申候。大明人も城下^ニ商賣之ため居申候。他国之賣物、糸、巻物。南蛮物^ニらしや、狸々皮、はあの。地^ハ御座候物、鹿皮、せうりうきうと^{申す}わう、白黒砂糖、水牛ノ角、藤也。葡萄酒、印子のおとめゆひかねの類、さん^{こしゆ}參申候^ヘ共、地^ハ無御座候。奥南蛮物^ハ御座候。

一日本^{より}持渡り申候物、小麦之粉、銅、鉄、所帶之道具、蒔絵ノ類、扇子紙、かた^{ひら}、屋くわん、水風呂、小刀、はさみ、食物之類、酒。

一はかしな 此所御朱印船終渡海無之。 九百里
一此所^南南蛮人居申候。彼地分買来候物、真壺、鹿ノ皮、せうりうきうの^{すわう}、黒砂糖。

呂宋国内

一日本よりもち渡り申候物、まんえいら同前。
一か、屋ん 右同前。 七百四十里

一東京 前々御朱印船渡海仕候。 千三百里

一此所分買来候物、小黄糸、小ほつけん、ほら綾、ほつけん、りんす、は、つむぎ、肉桂、「しゆくしや、うこん。

一日本分持渡り申候物、銅、鉄、いわう、銭少、所帯之道具、屋くかん、水風呂、扇子、「からかさ、鏡。

一跋趾 右同前。 千五百十里

一此所分買来申候物、黄糸、大ほつけん、れうつめ、沈香、伽羅、さや鮫、「黒砂糖、蜜、こせう、金、藤。

一日本分持渡り候物、銅、銭、やくわん、水風呂、かたひら、もめんぬのこ、扇、所帯道具。

一占城 此所権現様御時、一とせ御朱印船渡海仕、其後 千三百里 渡海無之、前ノ子丑寅三ヶ年御朱印船參申候。

一此所分買来申候物、伽羅、鮫、木綿嶋ノ類、さい角。 千四百八十里

一日本分何にても少持渡り申候。小国にて御座候故、何にても商賣物無之御座候。

一かほしや 前々御朱印船渡海仕候。 千四百八十里

一此所分買来候物、鹿皮、うるし、さうけ、蠟蜜、黒砂糖、水牛之角、さい角、檳榔子、「大風子、こせう、柄鮫、さや鮫、くしやくの尾、はんにや、うこん。

一日本分持渡り申候物、銅鉄、いわう、しやうのふ、所帯之道具、扇、からかさ、屋くわん。

一しゃむろ 右同前。 千八百二十里

鉛、錫、竜腦、きりん「けつ、さらさ、もめん嶋の類、藤、さんこしゆ。

一日本分持渡り候物、かほしあ同前。屏風、畳參申候。 千七百六十里

一ばたん 此所廿年以前二、御朱印船渡海仕候。 千七百六十里 其後渡海無御座候。

一此所分出申候物、こせう、鮫、さうけ。 二千五百里

一「まらか 二千五百里

一此所南蛮人船か、りのため住宅仕候。少し嶋崎也。此地分出申候物、錫、鮫、にくつく、「はかまはをりに成申候もめん嶋の類。

一「ごわ 此所廿年以前二、一年御朱印船渡海仕候。 三千六百五十里 其後渡海無御座候。

一此所右同前、南蛮人住宅、少の嶋崎にて御座候。此地分出申候物、あせんやく、木「香、したん、あめんとす、はあさと申候葡萄酒、もめん嶋の類。

一此所、御朱印船之渡海無御座候。 千七百五十里

一此国分りゆのふ、ひやくたん出申候。日本分渡り候物、鉄。 千五百里

一此国分丁子出申候。此所おらんだと南蛮人と城を取住宅仕、年々「せりあい」合戦仕候。

一此所三拾里四方計おらんだしたかへ城を取、国々への手つかひ、又八国々への物を「買来、方々へ指渡申候。おらんだ集所之湊にて御座候。此国に「商賣もの無之候。

一此所分參申候物、狸々皮、羅紗、はあの、らせいた、遍るさい、 壹万千九百里

一此所分參申候物、狸々皮、羅紗、はあの、らせいた、遍るさい、 壹万千九百里

安南国之内

天然之内

「ころさい」ほろらんしや、あるみさい、えけれどもすこらにや、
何にても毛」おりの類、ひいとろの類、葡萄酒。

此繪圖寛永十四年丁_五八月於長崎書之。

③〔山国神社摸本〕

(端裏書)

「異國渡海船路積圖 寛永十四年

京都府 山国神社所蔵」

日本長崎ヨリ異國江渡海之湊口マテ船路積 但三拾六町一里。

一南京 此所日本ヨリ御朱印船參候所ニテハ、無御座候。 三百里

彼地ヨリノ船、年々船日本江參申候。

一此所ヨリ、白糸、綸子、縮緬、紗綾、南京緞子、其外卷物色々、皿
茶碗、推朱曲輪之類、花入、何_ニ前も手之能物、白砂糖、菓種、
書籍持来申候。

一日本ヨリ彼地へ渡り申候物、銅、葉罐、水風呂。

大明国内之 一福州 右同前。 五百里

一此地ヨリ、来物南京同前。毛氈、水銀持參申候。

一障州_(マ) 右同前。 六百里

一右同前。ひろうと此国ヨリ出申候。皿茶碗、白黒砂糖參申候。此
国ヨリ出申候物者、何にてもあしき手の物也。

一天川 右同前。 八百里

一此所_ヲ南蛮人商賣之ため_ニ船か、りの嶋をかり住宅仕、大明之物
を日本_江買来、「又其身之國_ヘモ買渡し申候。日本_江買来候物、印子、
白糸、段子ノ類、紗綾、縮緬、綸子、繻子、」繻珍、紅糸、白ま

かい糸、毛氈、ひろうと、白黒木綿、鮫、水銀、とうたん、針、
唐ノ土、光明朱、菓種」色々、广香、山帰来、はくま、こくま、
しゃくま、皿茶碗、砂糖、蜜漬之類、其外南蛮物、天竺物」持
来申候。南蛮人と申者_ハ、国々_江商賣_ニ參申候故、他国之物何にて
も買来申候。

一日本ヨリ彼地_江持渡り候物、銅、所帯ノ道具、蒔絵之類、銅道具、
屏風、畳、ぬい薄染物之小袖。

多加佐古 此所先年亥、年ヨリ初_テ御朱印船參申候。 五百里

一此所北ノ端たむついと申所_ニ呂宋之南蛮人居申候。南ノ方たいわ
んと申湊_ハ日本人」商賣_ニ參申候。おらんたも住宅仕居申候。大

明_ハ近く御座候付、糸、巻物、此所_ニ買申候。」おらんた居申候
ニ付、天竺_ニ南蛮物も御座候。多加佐古之地_ハ御座候物、鹿皮込に
て御座候。

一日本今_ハ彼地_江持渡り申候物、銅、鉄、葉罐其外日本物少つ。但
是、多加佐古地之者_江賣申候ためにて、無御座候。大明人_ニ賣申
候ためにて御座候。

一まんえいら 此所、先年今_ハ御朱印船參、子ノ年今_ハ九百七十里
渡海御法度_ニ罷成申候。

一此所_ニ南蛮人城ヲ取居申候。大明人も城下_ニ商賣之ため居申候。
他国之賣物、糸、巻物。」南蛮物_ハらしや、狸々皮、はあの。

地_ハ御座候物、鹿皮、せうりうきうと申すわう、「白黒砂糖、
水牛ノ角、藤也。葡萄酒、印子のおとめゆひかねの類、さんこ
しゆも參申候へ共、」地_ハ無御座候。奥南蛮物_ハ御座候。

一日本ヨリ持渡り申候物、小麦之粉、銅、鉄、所帯之道具、蒔絵ノ類、
扇子、紙、かたひら、屋くわん、水風呂、」小刀、はさみ、食物
之類、酒。

呂宋国内之

安南国之内

一 はかしな 此所御朱印船渡海無之。 九百里

一 此所_ニも南蛮人居申候。彼地分買来候物、真壺、鹿ノ皮、せうりうきうの「すわう、黒砂糖。」

一 日本よりもち渡り申候物、まんえいら同前。

一 か、屋ん 右同前。 七百四十里

一 此所右同前。

一 東京 前々分御朱印船渡海仕候。 千三百里

一 此所分買来候物、小黄糸、小ほつけん、ほら綾、ほつけん、輪子、は、つむぎ、肉桂、しゆくしや、うこん。

一 日本分持渡り申候物、銅、鉄、硫黄、銭少、所帯之道具、屋くかん、水風呂、扇子、傘、鏡。

一 跋趾 右同前。 千五百十里

一 此所分買来申候物、黄糸、大ほつけん、れうつめ、沈香、伽羅、さや鮫、黒砂糖、蜜、胡椒、金、藤。

一 日本分持渡り候物、銅、銭、葉罐、水風呂、帷子、もめんぬのこ、扇、所帯道具。

一 占城 此所権現様御時、一とせ御朱印船渡海仕、其後 千三百里

渡海無之、前ノ子丑寅三ヶ年御朱印船參申候。

一 此所分買来り申候物、伽羅、鮫、木綿嶋ノ類、さい角。 日本分何にても少持渡り申候。小国にて御座候故、何にても商賣物無之御座候。

一 かほしや 前々分御朱印船渡海仕候。 千四百八十里

一 此所分買来候物、鹿皮、うるし、さうけ、蠟蜜、黒砂糖、水牛之角、さい角、檳榔子、大風子、こせう、「柄鮫、さや鮫、くしやくの尾、はんにや、うこん。

一 日本分持渡り申候物、銅鉄、いわう、しやうのお、所帯之道具、

天竺之内

扇、からかさ、屋くわん。

一 しゃむろ 右同前。 千八百二十里

一 此所分買来申候物、蘇木、鹿皮、から皮、象牙、鮫、水牛之角、鉛、錫、竜腦、きりんけつ、さらさ、木綿嶋_ノ之類、藤、さんこしゆ。

一 日本分持渡り候物、かほしあ同前。屏風、畳參申候。

一 ばたん 此所廿年以前ニ、御朱印船渡海仕候。 千七百六十里

其後渡海無御座候。

一 此所分出申候物、こせう、鮫、象牙。

一 まらか 二千五百里

一 此所南蛮人船か、りのため住宅仕候。少し嶋崎也。此地分出申候物、錫、鮫、にくつく、袴羽織に成申候木綿嶋ノ類。

一 ごわ 此所廿年以前ニ、一年御朱印船渡海仕候。 三千六百五十里

其後渡海無御座候。

一 此所右同前、南蛮人住宅、少の嶋崎にて御座候。此地分出申候物、あせんやく、木香、したん、「あめんとす、はあさと申候葡萄酒、もめん嶋ノ類。

此所、御朱印船之渡海無御座候。

一 此国分りゆのふ、ひやくたん出申候。日本分渡り候物、鉄。 千七百五十里

一 此国分丁子出申候。此所おらんだと南蛮人と城を取住宅仕、年々ニ

せりあい合戦仕候。

一 此所、御朱印船渡海無御座候。 二千五百里

一 しゃがたら 此所、御朱印船渡海無御座候。

一 此所三拾里四方計おらんだしたかへ城を取、国々への手つかひ、又八国々への物を買来、方々へ「指渡申候。おらんだ集所之湊にて御座候。此国に」商賣もの無之候。

いんげれす 右同前
おらんた 右同前

壹万千七百七百里
壹万千九百里

一此兩所分參申候物、猩々皮、羅紗、はあの、らせいた、遍るさい、ころさい、「ほろらんしや、あるみさい、えけれどもすくらにや、何にても毛おり」の類、ひいとのろの類、葡萄酒。

此繪圖寛永十四年^{丁丑}八月於長崎書之。但公方様へ上り候下書
貞享二乙歳再写之。

(裏書)

「京都府北桑田郡山國村山國神社所藏

異國渡海船路積圖 寛永十四年

昭和九年六月 中尾勝徳 摸(印)」

④〔山口大学本〕

日本長崎^今異國^江渡海之湊口込船積 但三拾六町一里。

一南京 此處日本^{ヨリ}御朱印船參候所^{ニテハ}無御座候。 三百里
彼地^{ヨリ}ノ船、年々船日本^江參申候。

一此處^{ヨリ}白糸、縮子、縮面、紗綾、南京緞子、其外卷物色々、皿茶碗、推朱曲輪之類、「花入、何^カも手之能物、白砂糖、菓種、書籍持來申候。

一日本^今彼地へ渡り申候物、銅、菓罐、水風呂。

大明国之内 一福州 右同前。

一此地^{ヨリ}來物南京同前。毛緬、水銀持參申候。

一障州^(マカ) 右同前。

五百里
六百里

一右同前。ひろうと此國^{より}出申候。皿茶碗、白黒砂糖參申候。此國^{より}出申候物、何にてもあしき手の物也。

一天川 右同前。

八百里

一此所^を南蛮人商賣之ため^ル船か、りの嶋をかり住宅仕、大明之物を日本へ「買來、又其身之國^へも買渡^シ申候。日本へ買來候物、印子、白糸、段子ノ類、さや、ちり」めん、縮子、縮珍、紅糸、白まかい糸、毛緬、ひろうと、白黒木綿、鮫、水銀、とうたん、針、唐ノ土、光明朱、菓種色々、丁香、山婦來、はくま、こくま、しゃくま、皿茶碗、白砂糖、蜜」漬之類、其外南蛮物、天竺物持來申候。南蛮人と申^ハ國々^江商賣^ニ參申候故、他」國之物何にても買來申候。

一日本^{ヨリ}彼地^江持渡り申候物、銅、所帶之道具、蒔絵之類、銅道具、屏風、畳、ぬい」薄染物之小袖。

多加佐古

此所先年^多年^初御朱印船參申候。

五百里

一此所北^之端たむついと申所^ニ呂宋之南蛮人居申候。南ノ方たいわんと申湊^カ」日本人商賣^ニ參申候。おらんた住宅仕居申候。大明^ニ「近く御座候二付、糸、巻物、此所」^{ニテ}買申候。おらんた居申候二付、天竺^ニ南蛮物も御座候。多加佐古之地^ニ御座候物^ハ」鹿皮込にて御座候。

一日本^今彼地へ持渡り申候物、銅、鉄、屋くわん其外日本物少つ、。但是、多加佐古地之者へ」賣申候ためにて、無御座候。大明人^ニ賣申候ためにて御座候。

一まんえいら 此所、先年分御朱印船參、子ノ年分 九百七十里

渡海」御法度^ニ罷成申候。

一此所^ニ南蛮人城を取居申候。大明人も城下^ニ商賣之ために居申候。他國之賣物、「糸、巻物。南蛮物^ニらしや、猩々皮、はあの。

呂宋国之内

地^亦御座候物、鹿ノ皮、せうりうきう」と申すわう、白黒砂糖、水牛ノ角、藤也。葡萄酒、印子之おとめゆひかねの類、さん

こしゆ^も參申候へ共、地^亦無御座候。奥南蛮物^亦御座候。

一日本^々持渡り申候物、小麦之粉、銅、鉄、所帯之道具、蒔絵之類、扇子、紙、かたひ^ら、やくわん、水風呂、小刀、はさみ、食物之類、酒。

一はかしな 此所御朱印船終渡海無之候。 九百里

一此所^亦南蛮人居申候。彼地より買來申候物、真壺、鹿ノ皮、せうりうきう」のすわう、黒砂糖。一日本^々持渡り申候物、まんえいら同前。

一か、屋ん 右同前。 七百四十里

一東京 前々^々御朱印船渡海仕候。 千三百里

一此所ヨリ買來候物、小黄糸、小ほつけん、ほら綾、ほつけん、りんす、は、つむき、肉桂、「しゆくしや、うこん。

一日本^々持渡り申候物、銅、鉄、いわう、銭少、所帯之道具、屋くかん、水風呂、扇子、か^らかさ、鏡。

一跋趾 右同前。 千百五十里

一此所^々買來申候物、黄糸、大ほつけん、れうつめ、沈香、伽羅、さや鮫、黒砂糖、蜜、こ^{せう}、金、藤。

一日本より持渡り候物、銅、銭、やくわん、水風呂、かたひ^ら、もめんぬのこ、扇、所帯之道具。

一占城 此所家康公御時、一とせ御朱印船渡海仕、其後 千三百里 渡海無之候。前ノ子丑寅三ヶ年御朱印船參申候。

一此所^々買來り申候物、伽羅、鮫、木綿嶋ノ類、さい角 日本^々何にても少持渡り申候。小国にて御座候故、何にても商

賣物無御座候。

一かほしや 前々^々御朱印船渡海仕候。 千四百八十里

一此所^々買來候物、鹿皮、うるし、さうけ、蠟蜜、黒砂糖、水牛之角、さい角、檳榔子、大風子、「こせう、柄鮫、さや鮫、くしやくの尾、はん^にや、うこん。

一日本^々持渡り申候物、銅、鉄、いわう、しやうのふ、所帯之道具、扇、からかさ、やくわん。

一しやむろ 右同前。 千八百二十里

一此所^々買來申候物、蘇木、鹿皮、から皮、さうけ、鮫、水牛之角、鉛、錫、竜腦、きりんけつ、さら^さ、もめん嶋の類、藤、さんこしゆ。

一日本^々持渡り候物、かほしあ同前。屏風、畳參申候。

一ばたん 此所廿年以前ニ、渡海御朱印船也。 千七百六十里 其後渡海絶申候。

一此所^々出申候物、こせう、鮫、さうけ。

一まらか 二千五十里

一此所南蛮人船か、りのため^亦住宅仕候。少之嶋崎也。此地^々出申候物、錫、鮫、にくつく、はかま^はをりになり申候もめん嶋之類。

一ごわ 此所廿年以前ニ、一年御朱印船渡海仕候。

其後渡海無御座候。 三千六百五十里

一此所右同前。南蛮人住宅、少之嶋崎にて御座候。此地^々出候物、あせんやく、木香、したん、あめん」とす、はあさと申葡萄酒、もめん嶋之類。

ふるねる 此所、御朱印船之渡海無御座候。 千七百五十里

一此国よりりゆのふ、ひやくたん出申候。日本^々渡り候物、鉄。

安南国之内

まろく 此所、一とせ御朱印船渡海仕候。

千五百里

一此国より丁子出申候。此所ハおらんだと南蛮人と城を取住宅仕、年々ニせりあい、合「戦仕候。

一此地ヨリ来物南京同前。毛氈、水銀持參申候。
一障州、右同前。

六百里

しやわ国の之内 一じやかたら 此所、御朱印船渡海無御座候。二千五百里

一右同前。天鷲絨此国ヨリ出申候。皿茶碗、白黒砂糖參申候。此国ヨリ出申候物ハ、「何ニテモ悪敷手ノ物也。

一天川、右同前

八百里

一此所三拾里四方計おらんだしらかへ城を取、国々への手つかひ、又ハ国々への物を買来「方々へ指渡申候。おらんだ集所之湊にて御座候。此国に商賣もの無御座候。

いんげれす 右同前

壹万七百里

おらんだ 右同前

壹万九百里

一此両所分參申候物、猩々皮、羅紗、はあの、らせいた、遍るさい、ころさい、ほろいん「しや、あるみさい、えけれどもますこらにや、何にても毛おりの類、ひいとろの「類、葡萄酒。

一此所ヲ南蛮人商賣ノ為ニ船懸ノ寫ヲカリ住宅仕、大明ノ物ヲ日本へ「買来、又其国買へモ渡シ申候。日本へ買来候物、印子、白糸、段子ノ類、紗「綾、縮緬、綸子、縞子、縞珍、紅糸、白マカイ糸、毛氈、天鷲絨、白黒木綿、鮫、水銀、「トウタン、針、唐之土、光明朱、葉種色々、射香、山飯来、ハ熊、黒熊、シヤ熊、皿「茶碗、砂糖、蜜漬之類、其外南蛮物、天竺物持来申候。南蛮人ト申ハ、「国「国ニ商賣ニ參申候故、他国ノ物何ニテモ買来申候。

一日本ヨリ彼地へ持渡申候物、銅、所帯ノ道具、蒔繪之類、銅道具、屏風、「畳、縫箔染物之小袖。

此繪圖寛永十四年丁丑八月於長崎書之。但 公方様へ上り候下書。

多加佐古 此処先年亥ノ年ヨリ初テ御朱印船參申候。

五百里

⑤〔神戸市本A〕

日本長壽ヨリ異国、渡海ノ湊口マテ船路積 但三十六丁一里。

一南京 此処日本ヨリ御朱印船參候処ニテハ無御座候。

三百里

彼地ヨリノ船、年々船日本江參申候。

一此処ヨリ、白糸、綸子、縮緬、紗綾、南糸穀子、其外巻物色々。

皿茶碗、推朱曲輪之類、花入、何ニテモ手ノ能物、白砂糖、葉種之類、書籍持来候。

一日本ヨリ彼地へ渡り申候物、銅、葉罐、水風呂。

大明国之内 一福州、右同前。

一福州、右同前。

五百里

一マンエイラ 此処、先年ヨリ御朱印船參。子ノ年ヨリ渡海御法度ニ罷成申候。

一此処ニ南蛮人城ヲ取居申候。大明人モ城下ニ商賣ノ為居申候。他国「ノ売物、糸、巻物、南蛮物ニハ、羅紗、猩々皮、ハアノ。地ニ御座候物ハ、鹿ノ皮、セウ「リユキュト申蘇芳、白黒砂糖、水牛ノ角、藤也。葡萄酒、印子ノ緒

留指」カ子ノ類、珊瑚珠モ參申候へ共、地ニハ無御座候。奥南蛮物ニ御座候。

一日本ヨリ持渡申候物、小麦ノ粉、銅、鉄、所帯ノ道具、蒔繪ノ類、扇子、紙、帷子、菓籬、水風呂、小刀、剪刀、食物ノ類、酒

呂宋国之内

一ハカシナ 此処御朱印船終渡海无御座候。

九百里

一此処ニモ南蛮人居申候。彼地ヨリ買來申候物、真壺、鹿ノ皮、小琉球ノ蘇芳、黑砂糖。

一日本ヨリ持渡リ申候物、マンエイラ同前。

一加々也牟、右同前。

七百四十里

一此所右同前。

一東京、前々ヨリ御朱印船渡海仕候。

千三百里

一此所ヨリ買來申候物、小黄糸、小ホツケン、ホウ綾、ホツケン、綸子、ハ、ツムキ、肉桂、宿砂、一鬱金。

安南国之内 日本ヨリ持渡リ候物、銅、鉄、硫黄、錢少、所帯之道具、菓籬、水風呂、

扇子、傘、鏡。

一跛趾、右同前。

千百五十里

一此処ヨリ買來申候物、黄糸、大ホツケン、レウツメ、沈香、伽羅、サヤ鮫、黑砂糖、椒、金、藤。

一日本ヨリ持渡候物、銅、錢、菓籬、水風呂、帷子、木綿布子、扇子、所帯

道具。

一占城、此処権現様御時、一年御朱印船渡海仕、其後

千三百里

渡海無之候。前之子丑寅三ヶ年御朱印船參申候。

一此処ヨリ買來リ申候物、伽羅、鮫、木綿寫ノ類、犀角。

一日本ヨリ何ニテモ少持渡リ申候。小国ニテ候故、何ニテモ商売物無之候。

一カホシア 前々ヨリ御朱印船渡海仕候。

千四百八十里

一此処ヨリ買來候物、鹿皮、漆、象牙、蠟蜜、黑砂糖、水牛ノ角、犀角、檳

椰子、大風子、胡椒、柄鮫、サヤ鮫、孔雀尾、班枝苳、鬱金。

一日本ヨリ持渡リ申候物、銅、鉄、硫黄、樟腦、所帯之道具、扇、傘、菓籬、天竺之内

一暹羅、右同前。

千八百二十里。

一此処ヨリ買來申候物、蘇木、鹿皮、唐皮、象牙、鮫、水牛ノ角、鉛、錫、

竜腦、麒麟竭、一サラサ、木綿寫之類、藤、珊瑚珠。

一日本ヨリ持渡リ候物、カホシア同前。屏風、豊參申候。

一バタン 此処廿年以前二、御朱印船渡海仕候。

千七百六十里。

其後渡海無御座候。

一此所ヨリ出申候物、胡椒、鮫、象牙。

一マウカ

二千五百里。

一此処南蛮人船懸リノ為ニ住宅仕候。少ノ寫寄也。此地ヨリ出申候物、錫、鮫、肉豆」蔻、袴羽織成申候木綿寫ノ類

一ゴワ 此処廿年以前二、一年御朱印船渡海仕候。

三千六百五十里

其後渡海無御座候。

一此処右同前南蛮人住宅、少ノ寫寄にて御座候。此地ヨリ出申候物、阿煎葉、

木香、紫檀、巴丹杏、ハアサト申候葡萄酒、木綿寫之類。

不留祢留 此処、御朱印船之渡海無之候。

千七百五十里。

一此国ヨリ竜腦、白檀出申候。日本ヨリ渡リ候物、鉄。

麻路久 此所、一年御朱印船渡海仕候。

千五百里。

一此国ヨリ丁子出申候。此処ハ阿蘭陀ト南蛮人ト城ヲ取住宅仕、年々ニセリ

合戦仕候。

シヤ王国之内

一咬嚼、此処、御朱印船渡海無御座候。

二千五百里。

一此処三十里四方計阿蘭陀シタカヘ城ヲ取、国々へ之手番、又八国々口之物を買取、方々へ指越申候。阿蘭陀集所之湊ニテ御座候。此国ニ商賣物無

之御座候。

インゲレス国 右同前

阿蘭陀国 右同前

壹万七百里

壹万九百里

一此兩処ヨリ參申候物、猩々皮、羅紗、ハアノ、羅世板、ヘルサイ、コロサイ、ホロイン、シヤ、アルミサイ、エケレタマスコラニヤ、何ニテモ毛織ノ類、硝子^{シロド}ノ類、葡萄酒。

此繪圖寛永十四年丁丑八月於長寄書之。但 公方様江上り候写

宝永六巳丑歲三月念一書寫。

天明元年歲次辛丑季冬上五図写。盖得湯華芳題曰、苍蔵世
界図、不知傳於何人。

(岡氏圖書之印)

印

多加佐古

五百里

日本從長崎異国^江渡海之湊口迄船路積 但三拾六町壹里。

一南京

三百里

一此所ヨリ、白糸、白りんず、白ちりめん、白さや、緞子、其外卷物色々、染付ノ皿茶碗、ついしゆ、くりくゝの類、花入、何にても手ノ能物ノ類、藥種、書籍持来り申候。

一日本より彼地江渡り候物、銅、やくわん、すいふる。

大明国之内

一福州

五百里

一此所ノ売物南京同前。毛氈、水銀持来り申候。

一障州^{シヤ}

六百里

一右同前。ひろうと此国より出申候。白砂糖、黒砂糖參り申候。此所より出申物、何にても皿茶碗にても、悪キ手ノ物也。

一天川

八百里

一此所を南蛮人之船か、り之嶋を借住宅仕。大明之物を日本へ買来り、又其身之國へも買渡し申候。日本へかい来り申候もの印子、白糸、段子の類、さや、「ちりめん、りんす、しゆす、しちん、紅糸、白マカイ糸、毛氈、黒木綿、」ひろうと、色々卷物之類、鮫、水銀、□たん、針、唐土、光明朱、藥種色々、「尸香、山帰来、はくま、こくま、しやくま、染付之皿茶碗、白砂糖、蜜漬」類、其外南蛮之物、天竺之物持来り申候。南蛮人ト申ものハ、國々^江商売ニ參申候故、他國之物何にても買来り申候。

一日本今彼地へ持渡り候物、所帶之道具、蒔絵之類、銅、同道具ノ類、屏風、」疊、ぬいはく染物ノ小袖。

一此所之北ノ端たむついと申所ニ、呂宋ノ南蛮人居申候。南ノ方たいわんと申」湊ニ日本人商賣ニ參申候。阿蘭陀も住宅仕候。大明ニ近ク御座候ニ付、糸」巻之類、此所ニ賣申候。おらんだ居申候付、天竺ニ南蛮物も御座候。多加」佐古ノ地ニ御座候物ハ鹿皮^ニ御座候。

一日本今持渡り申候物、銅、鉄、やくわん其外日本物少。但是、地ノものハ買不申候。明人ニ賣申候。

一まんえいら 九百七十里

一此所ニ南蛮人城を取居申候。大明人も城下ニ商賣のため居申候。大明之」賣物、糸、卷物。南蛮物には、らしや、猩々皮、はあの。地ニ御座候物ハ、鹿」皮、せうりうさうト申蘇木、白砂糖、黒砂糖、水牛ノ角、藤。他國

之もの」葡萄酒、さんこしゆ、色々參申候。

一日本ヨリ持渡り候物、小麦粉、銅、鉄、所帶ノ道具、蒔絵之類、扇子、紙、

之もの」葡萄酒、さんこしゆ、色々參申候。

一日本ヨリ持渡り候物、小麦粉、銅、鉄、所帶ノ道具、蒔絵之類、扇子、紙、

呂宋国内

帷子、」屋くわん、すいふろ、小刀、はさみ、食物之類。

一 はかしな

九百里

一 此所ニ南蛮人居申候。持渡り申候物、買來り候もの、右まんえいら同前。

一 か、やん

七百四拾里

一 此所右同前。

一 東京

千三百里

一 此所ヨリ買來り候物、小黄糸、ほつけん、ほらあや、小絹、りんす、ば、紬、」肉桂、ゆくしや、うこん。

一 日本分持渡り候物、銅、鉄、いわう、錢少、所帶ノ道具、やくかん、すいふろ、」扇子、からかさ、鏡。

安南国之内

一 跋趾

千五百十里

一 此所分買來り候物、黄糸、ほつけん、れうつめ、沈香、迦羅、さや鮫、黒砂糖、蜜、胡椒、金。

一 日本分持渡り候物、銅、鉄、錢、所帶ノ道具、やくわん、すいふろ、かたひら、木綿」ぬのこ、からかさ、鏡。

一 占城

千三百里

一 此所分買來り申候物、きやら、さめ。

日本分何にても少持渡り候。小国にて商買物何にても無御座候。

一 かほちや

千四百八十里

一 此所分買來り候物、鹿皮、うるし、さうけ、蠟みつ、黒砂糖、藤、水牛ノ角、犀」角、檳榔子、大風子、こせう、鮫、くしやくの尾、はんにや、うこん。

一 日本ヨリ持渡り申物、銅、鉄、いわう、生腦、所帶ノ道具、扇子、からかさ、やくわん。

一 しやむろ

千八百二十里

一 此所分買來り候物、蘇木、鹿皮、唐皮、象牙、柄鮫、水牛ノ角、鉛、錫、龍腦、」きりんけつ、さらさ、木綿しまノ類、藤、さんこしゆ。

天竺之内 一 日本分持渡り候物、かほちや同前。屏風、疊。

一 はたん

千七百六十里

一 此所分出候物、胡椒、鮫、象牙。

一 まらか

二千五十里

一 此所南蛮人舟懸り之為ニ住宅仕候。少之嶋崎ニ而御座候。此地分出申」候物、錫、鮫、にくつく、はかま羽織に成申候嶋之類。

一 ごわ

三千六百五十里

一 此所右まらか同前。少之嶋崎ニ而御座候。此所分出申候物、あせんやく、木香、」あめんとす、したん、はあさと申葡萄酒、木綿之類。

ふるねる

千七百五十里

一 此国分出申候物、りうのふ、ひやくたん。

一 日本ヨリ渡り申候物、くろかね。

まろく

千五百里

一 此国分出申候物、丁子。阿蘭陀人ト南蛮人ト城を取住宅仕、年々せり合」かつせん仕候。

しやわ国之国、しやかた

二千五百里

一 此所三拾里四方計阿蘭陀したかへ城を取、国々へ、手つかい、又国々ノ物を」買來り方々へ渡し申候。阿蘭陀集まり所ノ湊ニ而御座候。さして此国ニ商売物」無御座候。

いんげれす国

一万千七百里

但ふるんさと中国之内

おらんたの国

一万千九百里

一 此両所分参候物、猩々皮、らしや、はあの、らせいた、遍るさい、ころさい、」ほるらんしや、あるみさい、えけれますこらにや、何にても毛にて織シ」

ものノ類、ひいところノ類、ふとう酒。

⑦〔国会図書館本〕

日本長崎ヨリ異国へ渡海之湊口マテ船路積

但三十六町
一里也

大明国内

一里也

一南京、三百里。此所ヨリ、白糸、リンズ、白チリメン、白さや、トンス、其外ノ巻物色々、染付ノ皿碗、ツイ朱、くりくりノ類、花入、何ニテモテノヨキノ物ノ類、薬種、書籍持来り申候。

日本ヨリ彼地へ渡り候物、銅、ヤクワン、スイフロ。

一福州、五百里。此所ノ代物南京同前。毛氈、水銀持来り申候。

一障州、右同前。ピロウト此国ヨリ出申候。白砂糖、黒砂糖参り候。此所ヨリ出申物、何ニテモ皿茶碗ニテモ、アシキ手ノ物也。

一天川、八百里。此所ヲ南蛮人商賣ノ為ニ船カ、リ嶋ヲ借り住宅ノ仕、大明ノ物ヲ日本へ買来り、又其身ノ国へモ買渡シ候。日本へ買来り候ノ物、印子、白糸、段子ノ類、サヤ、チリメン、リンズ、シユスシチン、紅糸、マカイ糸、毛氈、黒木綿、白木綿、ヒロウト、色々巻物ノ類、鮫、水銀、トウタン・針、唐ノ土、光明朱、薬種色々、麝香、山婦来、ハクマ、コクマ、シヤクマ、染付ノ皿茶碗、白砂糖、蜜漬ノ類、其外南蛮ノ物、天竺ノ物持来り申候。南蛮人ト申者ハ、国々へ商賣ニ参候故、他国ノ物何ニテモ買来り申候。日本ヨリ彼地へ持渡り候物、所帯道具、蒔絵ノ類、銅、同道具ノ類、屏風、タタミ、スイハク染ノ小袖。

一多加佐古、五百里。此所北ノ端タンツイト申所ニ、呂宋ノ南蛮人居申候。南ノ方タイワント申湊ニ日本人商賣ニ参り申候。オランダモ住ノ宅仕候。大明ニ近ク御座候ニ付テ、糸、巻物ノ類、此所ニテ賣申候。オランダノ居申候付テ、天竺、南蛮ノ物も御座候。タカサコノ地ニ御座候物ハ鹿ノ皮マテ候。日本ヨリ持渡り申候物、銅、鉄、ヤクワン其外日本物少。但是ハ地ノ者ニハ賣不申候。

大明人ニウリ申候。

呂宋国内

一マンエイラ、九百七十里。此所ニ南蛮人城ヲ取居申候。大明人モ城下ニ商賣ノ為居申候。大明ノ代物、糸、巻物、南蛮物ニハ、ラシヤ、狸々皮、ハアノ地ニ御座候物ハ、鹿皮、セウリウキウト申蘇木、白砂糖、水牛ノ角、藤、他国ノ物、ブドノ酒、サンコシユ、色々参り申候。日本ヨリ持来り候物、小麦ノ粉、銅、鉄、所帯ノ道具、蒔絵ノ類、扇子、紙、帷子、ヤクワン、スイフロ、小刀、ハサミ、食物ノ類也。

一ハカシナ、九百里。此所ニモ南蛮人居申候。商賣物マンエイラニ同シ。

一カ、ヤン、七百四十里。此所右同前。

安南国之内

一東京、千三百里。此所ヨリ買来り候物、小黄糸、ホツケン、ホラ綾、ホツケンリンズ、バ、袖、肉桂、シクシヤ、ウコン。日本ヨリ持渡り候物、銅、鉄、ユワウ、銭少、所帯ノ道具、ヤクワン、水フロ、扇子、カラカサ、鏡。

一跋趾、千五百里。此所ヨリ買来り申物、黄糸、ホツケン、レウツメ、沈香、伽羅、サヤ鮫、黒砂糖、蜜、胡椒、金。日本ヨリ持渡り候ノ物、銅、鉄、所帯ノ道具、ヤクワン、水フロ、扇子、木綿ヌノコ、カラ笠、扇。

天竺之内

一占城、千三百里。此所ヨリ買来り申候物、伽羅、鮫。日本ヨリ何ニテモ少持渡り申候。小国ニテ商賣物何ニテモ無御座候。

一カホシヤ、千四百八十里。此所ヨリ買来り申候物、鹿皮、ウルシ、ザウゲ、蠟蜜、黒砂糖、藤、水牛ノ角、犀角、檳榔子、大風子、胡椒、鮫、クシヤクノ尾、ハシヤ、ウコン。日本ヨリ持渡り申物、銅、鉄、ユオウ、消腦、所帯ノ道具、扇、カラカサ、ヤクワン。

一シヤムロ、千八百二十里。此所ヨリ買来り申候物、蘇木、鹿皮、唐皮、ザウゲ、柄鮫、水牛ノ角、鉛、錫、竜腦、キリンケツ、サラサ、木綿嶋ノ類、藤、サ

ンコシエ。日本ヨリ持渡リ候物、カホシヤ同前。屏風、畳。

一ハタン、千七百六十里。此所ヨリ出候物、胡椒、鮫、ザウゲ。

一マラカ、二千五十里。此所南蛮人船カ、リノ為ニ住宅仕候。少ノ嶋崎ナリ。

此地錫ヨリ出候物、錫、鮫、ニクツク、羽織袴ニナル嶋ノ類。

一ゴワ、三千六百五十里。此所右マラカ同前。少嶋崎ニテ御座候。

此所ヨリ出候物、アセンヤク、木香、アメントス、シタン、ハアサト申ブドウ酒、木綿嶋之類。

○フルネル、千七百五十里。此国ヨリ出申候物、リウノウ、ヒヤクタン。」日本ヨリ渡リ候物、鉄。

○マロク、千五百里。此国ヨリ出申候物、丁子。此地ニテヲランタ人ト」南蛮人ト城ヲ取住宅仕、年々セリ合、合戦仕候。

○シヤワノ国内、シヤカタラ、二千五百里。此所三十里四方計オランダ」シタカヘ城ヲトリ、国々ヘノ手ツカヒ、又国々ノ物ヲ買来リ、方々へ渡」申候。ヲラシタアツマリ所ノ湊ニテ御座候。サシテ此国ニ商賣物ナシ。

○インゲレス國 一万七百里

○オランダノ國 但しフランサト申國ノ」内ナリ 一万九百里

此両所ヨリ參候、狸々ノ皮、ラシヤ、ハアノ、ラセイタ、ヘルサイ、コロサイ、ホルラシニヤ、アルミサイ、エケレタマスコラニヤ、何ニテモ毛ニ織申ス」物ノ類、ピイトロノ類、葡萄酒。

⑧〔総持寺本〕

日本長崎異國江渡海之湊口 船路積 但三拾六町壹里

一南京^エ、三百里。此處ヨリ、白糸、白縮緬、白サヤ、緞子、其外」巻物色々、染付ノ皿茶碗類、朱、クリ々々ノ類、花入、何ニテモ手ノヨキ物ノ」類、葉種、書籍持来。日本ヨリ彼地へ渡、銅、ヤクワン、水風呂。

一大明國之内福州^エ、五百里。此所ヨリノ物南京ト同前。毛氈、水銀持来。

一障州^エ、六百里。此國ヨリ出物。ピロウド、白砂糖、其外 皿茶碗ノ類、悪手ノ物。

一天川^エ、八百里。此ノ所ニ南蠻人為商賣船カ、リノ嶋ヲ借、住宅仕、大明ノ物ヲ」日本工買来、又其身ノ國へモ買渡ル也。日本工買来ル物、丁子、白糸、緞子、サ

ヤノ類」縮緬、綸子、縹子、シウチン、紅糸、白マ黒マ赤マ、毛氈、黒木綿、白木綿、ピロウド、色々」巻物類、鮫、水銀、唐丹、針、唐土、光明朱、葉種色々、麝香、山帰来、染付ノ茶碗、」白砂糖、蜜漬ノ類。南蠻ノ物、天竺ノ物持来ル也。

南蠻人ハ國々エ 商賣ニ 行故、他國ノ物何ニテモ買来ル也。日本ヨリ彼地エ持渡ル物、所帯ノ道具、蒔絵ノ類、銅」道具、屏風、畳、縫箔ノ染物ノ小袖。

一多加佐古^エ、五百里。此所北ノ端ニ タンツイト申所ニ、呂宋ノ南蠻人居也。南ノ方ニタ」イワント云湊ニ日本人商賣ニ往。オランダモ住宅仕ル也。大明ニ 近故、糸、巻物之類、此所」ニテ買也。オランダ居住ニ付、天竺、南蠻物モ有之也。多加佐古ニ 有物ハ鹿皮斗也。

一マンエビラ^エ、九百七十里。此所ニ 南蠻人城ヲ取、居住仕也。大明人モ城下ニ 商賣」ノ為ニ住居也。大明ノ代物、糸、巻物。南蠻物ニハ、ラシヤ、狸々皮。此所ニ有物ハ鹿皮、セウ」リウキト云物、蘇木、白砂糖、黒砂糖、水牛。呂宋國之内ノ角、藤。他國ノ物、」ブドウ酒、サコシウ、色々来ルナリ。日本ヨリ持渡ル物、小麦粉、銅、鉄、所帯ノ」道具、蒔絵ノ類、扇子、紙、カタビラ、ヤクワン、小風炉、小刀、ハサミ、食物ノ類ナリ。

一ハカシナ^エ、九百里。此所ニモ南蠻人居ルナリ。持来ル物買来物、マンヒラ同前ナリ。

一カタヤン^エ、七百四十里。此所右同前ナリ。

一東京^エ、千三百里。此所ヨリ買来物、黄糸、ホツケン、ホラアヤ、北絹、リンス、袖肉桂、」縮砂、鬱金。日本ヨリ持来物、銅、鉄、ユワウ、銭少、所帯ノ道具、ヤクワン、水風呂、」唐笠、鏡。一安南國之内、一跋趾。此所ヨリ買来物、黄糸、北絹、リウノツメ、沈香、伽羅、

サヤ鮫、「黒砂糖、蜜、胡椒、金ナリ。日本ヨリ持来物、銅、鉄、所帯ノ道具、ヤクワン、水風呂、」帷子、木綿小袖、唐笠、扇子。

一占城^{マヤ}、千三百里。此所ヨリ買来物、伽羅、鮫。日本ヨリハ何ニテモ少持渡也。北國何モナキ所ナリ。

一カボチャ^マ、千四百八十里。此所ヨリ買来物、鹿皮、漆、象牙、蠟蜜、黒砂糖、藤、水「牛ノ角、檳榔子、大腹子、胡椒、鮫、孔雀ノ尾、ハンニヤ、鬱金。日本ヨリ持渡、銅、鉄、」ユワウ、樟腦、所帯ノ道具、扇子、唐笠、ヤクワン。

一シャフロ^マ、千八百二十里。天竺之内ナリ。此所ヨリ買来物、蘇木、鹿皮、唐皮、象「牙、柄鮫、水牛ノ角、鉛、錫、竜腦、麒麟血、サラサ、木綿嶋ノ類、藤、真珠。」日本ヨリ持来物、カボチャ同前、屏風、鬘。

一ハタン^マ、千七百六拾里。此所ヨリ出ル物、胡椒、鮫、象牙。

一マツカ^マ、二千五拾里。此所南蠻人船カタリノ居住スル也。少ノ嶋サキナリ。錫、鮫、肉豆冠、羽織表ニナルシマノ類。

一ゴハ^マ、三千六百五十里。此所マツカ同前。少ノ嶋サキナリ。阿前葉、木香、アメン「トス、シタン、ハアサト云 酒、木綿シマノ類。

一フル子^マ、千七百五十里。此所ヨリ出ル物。竜腦、白檀。日本ヨリ渡物、鉄。

一マロク^マ、千五百里。此所ヨリ出ル物、丁子。オランダト南蠻人ト城取住宅「仕、年々セリ合々戦スル。

一シャハ^マ之内シヤガタラ^マ、二千五百里。此所三十里四方オランダシタガハ、國ノテヅカイ、又國ノ物ヲ買来、方々エ渡ス也。ヲランダアツマリ所ノ湊ナリ。サシテ商賣物無之候。

一インケ^マレス國^マ、一万千七百里ト

一オランダ國^マ、一万千九百里。但シ、フランサト云國ノ内ナリ。此所ヨリ来物ハ、猩々皮、ラシヤ、ハアノ、ラセイタ、ヘルサイ、コロサイ、ホルランシヤ、アロミサイ、エケ「レタマスコラニヤ、何ニテモ毛ニテ織物ノ類、ビイトロノ類、ブドウ酒ナリ。

大ノ字ノ有所ハ、南ノハテ何里何海トモシラスクラキ所ニテ、土ハ泥「ニテ船等吹放テハ出ル事ナラン也。大明國ヨリ一万八千三百八」十里余迄ハ船向寄アレドモ、其ノ先ハ方角不知。

⑨〔佐賀県本〕

〔裏書〕「世界図」

日本長崎^マ異國^マ渡海之湊口迄

船路積 但三拾六町壹里

一南京江、三百里。此所ヨリ、白糸、白りんす、「白ちりめん、さや、とんす、其外巻物色々、染「付ノ皿茶碗、くりりの類、花入、何にても」手のよき物の類、葉種、書籍持来ル。日本分「彼地江渡り候物、銅、やくわん、水風呂。

一福州、五百里。此所之代物、南京同前。毛氈、水「銀持来ル。

一障州、六百里。右同前。此所分ひろいと、白砂糖、「黒砂糖、持来。此所分出ル物、何にても、皿茶碗迄、悪「敷手之物也。

一天川、八百里。此所を南蠻仁商買之ためニ船掛之「嶋を求住ス。大明之物を日本江買来リ、又其身之國「江も買渡し候。日本江買来ル物、印子、白糸、段子の類、さや、「ちりめん、りんす、縹子、紅糸、白まかい糸、毛氈、黒もめん、「白木綿、ひろうと、色々巻物之類、さめ、水銀、とたん、「針、唐之土光明朱、葉種色々、麝香、山帰来、「白熊、黒熊、赤熊、染付ノ皿茶碗、白砂糖、蜜「漬之類、其外南蠻之物、天竺之物持来ル。」南蠻人ハ、國々江南賣ニ參候故、他國之物何にても」買来ル。日本分彼地江持渡ル物ハ、所帯之道具、「蒔絵之類、銅道具之類、屏風、鬘、縫薄「染物之類。

一たかさこ、六百里。此所ニ南蠻仁居候而、南ノ方たいわんと云湊ニ「日本人商ニ參、おらんたも住宅ス。大明ニ近く有之ニ付、糸、巻「物之類、此所ニテ買候。おらんたも居候付、天竺南蠻ノ物も御座候。た「かさこの地ニ有之物ハ鹿皮迄也。日

本分持渡物、銅、やくわん其外之物少。是ハ地之者ハ不買、大明人ニ賣也。

一まんえいら、九百七拾里。此所ニ南蠻人城を取居ル。大明仁も城下ニ「賣買之た

めニ住居ス。大明之代物、糸、巻物、南蠻物には、羅紗、「右之地ニ有之物ハ、鹿皮、

せうりうきうと云蘇木、白砂糖、黒砂糖、「水牛ノ角、藤、他國之物、葡萄酒、さ

んこしゆ、色々參候。

一呂宋國日本分持渡物、小麦の粉、銅、鉄、所帯ノ道具、^{マツ}「巻」繪之類、扇子、帷子、

やくわん、水風呂、小刀、はさみ、食物之類。

一はかしな、九百里。此所ニも南蠻人居ル。持渡ル物、買來物、右まんえいら同前。

一か、屋ん、七百四拾里。此所右同前也。

一東京、千三百里。此所より賣來ル物、小黄糸、ほつけん、綾、小絹、「りんす、肉桂、

しゆくしや、うこん。

一安南國之内、日本分持渡ル物、銅、鉄、いわう、錢、所帯の道具、やくわん、

水風呂、扇子、帷子、木綿布、からかさ、鏡。

一占城、千三百里。此所分賣來物、伽羅、さめ。日本分何にても少宛ハ「持渡。小

國にて商賣物何にても無之。

一かほちや、千四百八拾里。此所分賣來物、鹿皮、漆、さうけ、蠟蜜、黒「さたう、

藤、水牛ノ角、犀角、檳榔子、大風子、胡榭、さめ、孔雀の尾、「はんにや、うこん。

一志やむろ、千八百二拾里。此所分賣來物、鹿皮、蘇木、唐木、唐皮、象牙、柄さめ、

水牛ノ角、鉛、錫、龍腦、麒麟血、さらさ、木綿嶋の類、藤、珊瑚珠。日本分持渡

ル物、かほちや同前。屏風、畳。

一端丹、千七百六十里。此所分出ル物、こせう、さめ、そうけ。

一まらか、二千五百里。此所南蠻人船返と「して住宅ス。少嶋崎なり。此地分「出

ル物、錫、さめ、にくつく、袴羽織になる「嶋ノ類。

一こわ、三千六百五十里。右まらか同前。少嶋さきにて候。此所分出物、「あせんや

く、木香、たうさ、したん、はあさとは申葡萄酒、もめん嶋」の類。

一ふるねる、千七百五十里。此國分出物、龍腦、白檀。日本分ハ、鐵也。

一まろく、千五百里。此國分出物、丁子。此地におらんた人と南蠻」と城を取住居ス。年々にせり合ノ合戦有之。

一しやかたら、式千五百里。此所三十里四方計おらんたしたかへ城を「取、國々江

の手遣、又國々ノ物を買來り、方々江渡し、おらん」た集所の湊にて候。さして

此國に、商買物これなし。

一いんけれす國、壹万千七百里。

一おらんた國、壹万九百里。但ふらんさと云國ノ内。此両所分賣來「物ハ、らしや、

らせいた、遍るさい、ころさい、ほらんしや、あるみさひ」をけれたますこら

にや、はあ、何にても、毛ニテ織物の類、ひろう」と、藤、葡萄酒。

一、遍るつう、九千五百七十里。此所分出ル物、籠、藤、葉種、何れも悪敷、「碗物

ノ類、香箱などハ南京物ニ少にたり。

一、いるあにや、式千里。日本分渡物、錫銅の類、屏風、木綿のかた付候「物ノ類。

彼國分日本へ渡物、蘇木、白檀、紫檀、檳榔子、たうさ、桂「しん、織物ノたか

き物ノ類也。

一、跋趾、千五百五十里。此所分賣來物、黄糸、ほつけん、れうつめ、沈香、伽「羅、

さやさめ、黒さとう、蜜、こせう、金。日本分持渡ル物ハ、錢、鉄、所「帯の道具、

屋くわん、水風呂、帷子、もめんぬのこ、からかさ、扇子。

一、大ノ字有之所ハ、南ノはて何里何海とも積り不知不行、闇所」にて土ハ皆泥、船

など此所に吹放たれ行者、出事不成、惣人間不而「住所なり。

大明國分此所迄、壹万八千三百七拾里余迄ハ船寄候。其外方角不知。

⑩〔神戸市本B〕

日本従長崎異國へ渡海之湊口迄舟路積

但三十六丁一里。

△南京 三百里。

一此処ヨリ、白糸、白縮緬、白紗綾、緞子、「其外巻物色々、染付之皿茶碗、堆朱、曲輪、ノ」類、花入、何ニテ手ノヨキ物ノ類、菓種、書籍來候。

△福州 五百里 大明國之内

一此所買物南京同前。毛氈、水銀持來候。

△漳州 六百里

一右同前。ヒロウト此國ヨリ出申候、白砂糖、黒砂糖參候。「此國ヨリ出申物、何にても、皿茶碗ニテモ、悪手也。

△天川 八百里

一此所ヲ南蛮人賣買ノ船掛嶋ヲ借住宅仕候。「大明之物ヲ日本へ買來、亦其身ノ國へ毛買渡申候。」日本へ買渡申物、印子、段子類、紗綾、縮緬、綸子、シユチン、紅糸、白マカイ糸、毛氈、黒木綿白木綿、ヒロウト、色々ノ巻」物類、鮫、水銀、トウタン、針、唐土、光明朱、菓種色々、广香、「山販來、ハクマ、コクマ、シヤクマ、染付之皿茶碗、白砂糖、蜜漬」類、其外南蠻天竺物持來。南蠻人ト申」者ハ、國々へ商買參候故、他國物何ニテモ買來。日本ヨリ彼地へ渡物、処帶道具、蒔繪之類、銅、同道具類、屏風、畳、縫薄染物蠻小袖。

△多加佐后、五百里。

一此処北ノ端タムツイト申所、呂宋ノ南蠻人居申候。「南蠻ノタイワント申処ニ日本人商賣參候。阿蘭陀モ」住宅仕候。大明ニ近き故、糸、巻物ノ類、此所ニテ買申」候。阿蘭陀居申付、天竺南蠻物御座候。高」砂之地御座候物者、鹿皮迄ニテ御座候。「日本ヨリ持渡申物、銅、鉄、菓種、其外日本物少。但」是ハ地ノ者買不申候。大明之人賣申候。

△マンエイラ

一此処ニ南蛮人城ヲ取居申候。大明人モ城下ニ商賣ノ」為ニ居申候。大明之賣物、糸、巻物。南蠻物ハ、羅紗、「狸々皮、カノ地有之物ハ、鹿皮、セウリウキト申候蘇木」白砂糖、黒砂糖、水牛角、藤、他國物、葡萄酒、「珊瑚樹、色々參申候。日本ヨリ持渡候物ハ」、小麦粉、銅、処帶道具、蒔繪類、扇子、鉄、帷」子、菓種、水風呂、

鉢、食物類。

△呂宋之内ハカシナ 九百里。

一此処南蠻人居申候。持渡物買來申物、マンエイ」ラ同前。

△カ、ヤム 七百四十里。此処右同前。

△東京 千三百里。

一此処ヨリ買來申候物、黄絹、黄糸、ホラ綾、小絹、「綸子、ハ、袖、肉桂、縮砂、烏金。日本ヨリ持渡」申候物、銅、鉄、硫黄、錢少、処帶道具、菓種、水風呂「呂、唐笠、鏡。

△安南国之内 跋趾

一此処ヨリ出申物、黄糸、黄絹、龍爪、沈香、伽羅、紗」綾、鮫、黒砂糖、蜜、根柢、金。日本ヨリ持渡物」、銅、鉄、処帶道具、菓種、水風呂、帷子、木綿布子「傘、扇子。

△シヤムロ 千八百廿里。

一此所ヨリ賣來申候物、蘇木、鹿皮、唐皮、象毛、「鮫、孔雀尾、ハンニヤ、烏金、蠟蜜、黒砂糖、水牛角、「鉛、錫、龍腦、麒麟血、サラサ、木綿鳥類、藤」珊瑚珠。△マ、ク 二千五百里。

一此処、南蛮人船掛リノ為住宅仕候。少寫」先也。此地今出申物、錫、鮫、肉豆蔻、

袴羽織ニ」成寫類。

△フルネル 千七百五十里

一此所ヨリ出申物、龍腦、白且。日本ヨリ渡物、鉄。

△シヤウ之内 シヤカタラ 二千五百里

一此処三千里四方計阿蘭陀城ヲ取申、國々へノ」手遣、又國々ノ物ヲ買來、方々へ渡申候。阿蘭」陀集所湊ニテ御座候。サシテ此國ニ商買物無之候。

但フランサト申國ノ内也。

△インケレス 壹万千七百里

阿蘭陀國

此処ヨリ參候物、狸々皮、羅紗、ハアノ、ラセイタ、「ヘルマイ、ムロサイ、ホル
ランサ、アルミサイ、エイレタマスコ」ラニヤ、何ニテモ毛ニテ織申ス物類、
ビイドロ」ノ類、葡萄酒。

⑪〔石橋五郎本〕

日本長崎ヨリ異国江渡海之湊口迄船路積

此所今、白糸、りんず、ちりめん、とんす、其外手のよき巻
物とも、染付の類「ついしゆ、くりしゆ」の類、花入、何にて
も手のよき物、薬種、書籍持来。日本ヨリ」彼地へ渡り申物、
銅、やくわん、すいふる。

三百リ 此所の代物、南京同前。その外、もうせん、水銀持来。

一南京 三百リ、琉球迄。三百五十リ、都の嶋迄。

五百リ 此所の代物、右同前。ひろうと、砂糖持来。此外物、茶碗染

一福荔 付来候へと悪き手の物也。

大明國內

六百リ 此所を南蠻人商賣船か、りの為に嶋をかり住宅仕候。かんだ
う近き所也 大明の「物を日本へ買来り、亦其身の国へも買

一障^{（て）}荔 渡し申候。日本へ買来候物は、印子、白糸、「段子の類、さや、

八百リ ちりめん、色々の巻物の類、しゆす、しちん、ひろうと、も

一天川 うせん、白木綿「黒木綿、さめ、水銀、とたん、針、とうの土、

光明朱、葉種色々、しやくま、さんきらひ、」はく満、こく満、

しやくま、染付のさら茶碗、さとう、蜜漬の類。南蠻物、天

竺の物」持来。南蠻人ハ、國々へ商賣に參候故、他国の物買来。

日本ヨリ彼地へ持渡候物、所帯」の道具、蒔絵の類、銅道具

の類、屏風、畳、縫薄染の類、小袖なり。

多加佐古

五百リ 鶏頭籠

此所北の端たむついと申所、するんの南蠻人」居申候。南の
方たいわんと申所に、日本人商賣に」參り、おらんたも住宅
仕也。大明に近候につき、糸、巻物」の類、此所にて買申候。
おらんたおり申に付、天竺の「物も有。高砂の地に有之物ハ、
鹿皮迄也。日本」ヨリ彼地へ持渡申物ハ、銅、鉄、屋くわん、
其外日本物少。」但是ハ地のものハ買不申、大明人に賣申候。

九百七十リ 此所南蠻人城を取居申候。大明人も城下に」商賣の為に居申
候。大明の代物、糸、巻物、南蠻」の物には、らしや、しゃ
うしひ、はあの。地に有之物ハ、」鹿皮、せうりうきうと申
すわう、砂糖、水牛」の角等。他国の物ふとう酒、さんこしゆ、
色々參候。

一まんえいら

九百リ 日本ヨリ持渡候物ハ、小麦のこ、銅、鉄、所帯の道具、」蒔

一はかしな 絵の類、扇子、紙、帷子、やくわん、水風呂、小刀、はさ

呂宋国の内

七百四十リ 此所にも南蠻人居申候。買来候物、まんえいら

一か、やん

千三百リ 同前。

一東京 此所にて同前。

此所今買来候物、小黄糸、北絹、からあや、ほつけん、りん」す、

は、袖、肉桂、縮砂、うこん。日本ヨリ持来候物、銅」鉄、

いわう、銭少、やくかん、水風呂、からかさ、鏡、扇、所帯

の道」具。

千五百五十リ 此所今買来候物、黄糸、ほつけん、れうつめ、」沈香、迦羅、

一跋趾 鞆鮫、黒砂糖、こせう、金。

安南国の内

日本ヨリ持渡候物、銅、鉄、葉罐、水風呂、」帷子、木綿、

千三百リ

からかさ、扇子。

一 ちやんは

此所分買來候物、きやら、さめ。日本ヨリ何」にても少持渡候。小國にて商買物何にても無之候。

二千五百リ

しやわ国内し

やたら

此所三十里四方斗、おらんたへ隨ひ城を取、國々への手遣、又國々の物買來、方々へ渡し申候。おらんた集所の湊也。商売物さして無之候。

千四百八十リ

此所分買來候物、鹿皮、漆、さうけ、蠟蜜、砂糖、水「牛の角、犀角、ひんろうし、たいふうし、こせう、さめ、くしやくの尾、はんや、うこん、せうりうきうのすわう。

一万千七百リ

いんげれす

此所分出候物、せうせうひ、らしや、はあの、らせ」いた、遍るさい、ころさい、ほらんしや、あるみさ」い、ゑ

千八百二十リ

日本ヨリ持來り候物、銅、鉄、いわう、せうのう、所帶の道具、扇子、からかさ、屋くわん。

おらんた

但ふらんさと申国の内也。けれどもすくら」にや、何にても毛にて織候物の類、ひいとろの」類、ぶどう酒。

千七百六十リ

一 はたん

天竺内

二千五十リ

一 満る

三千六百五十リ

一 二ごわ

此所分出候物、こせう、さめ、さうけ。此所南蠻人船か、りの為、住宅仕候。少の嶋先也。此地ヨリ出候物、すず、さめ、にくつく、袴羽織」成候嶋の類。此所の代物、まるか同前。少の嶋にて候。此所分」出申物、あせんやく、あめんとす、木香、したん、はあさ」と申ふとう酒、木綿嶋の類。

千七百五十リ

ふるねる

此所分出候物、りうのふ。日本分渡り候物、鉄。

千五百リ

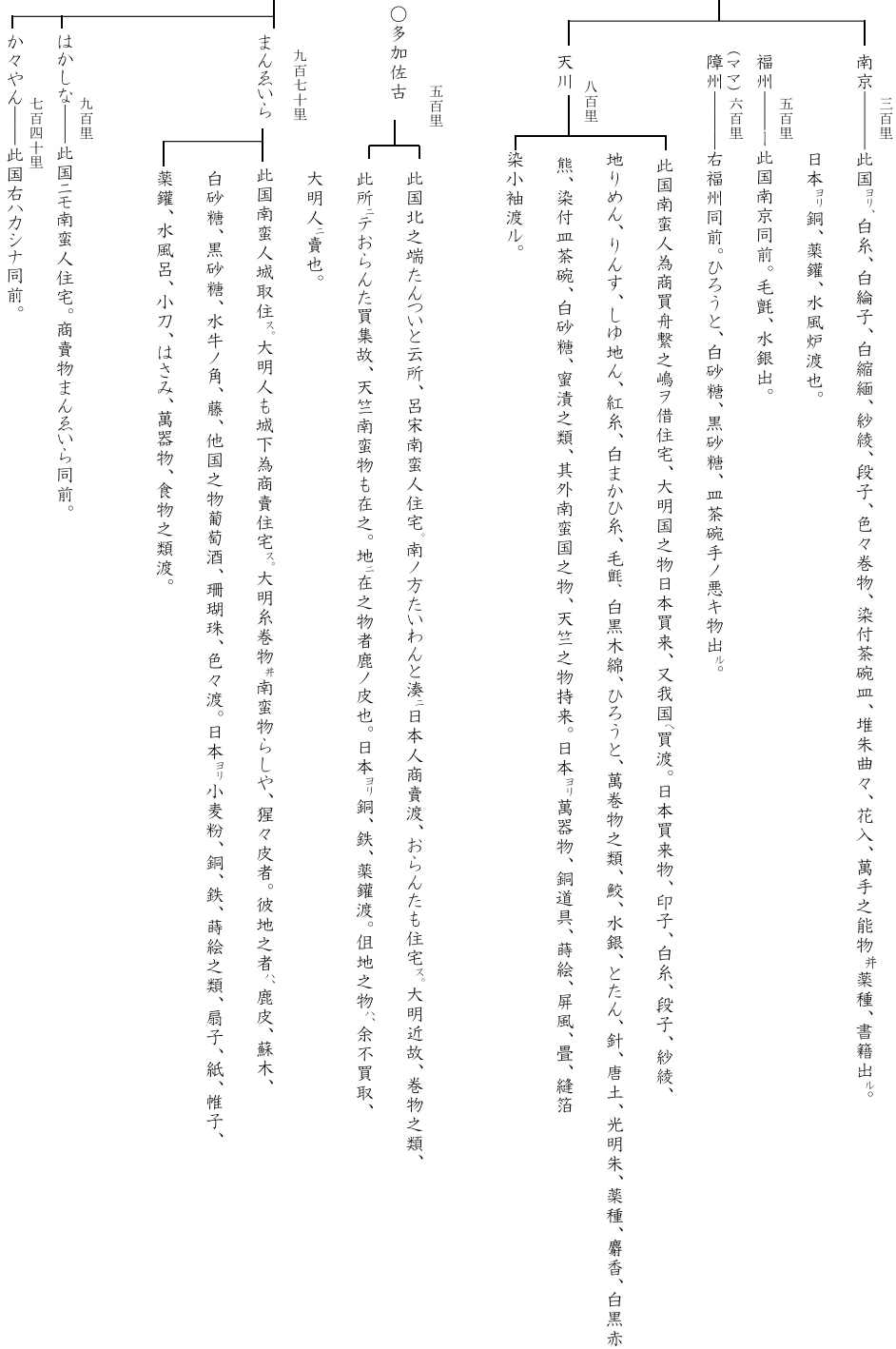
満ろく

此所分出候物、丁子。此地におらんた人と南蠻人と城を取住宅仕、年々せり合して戦

⑫〔岡山県本〕

日本長崎ヨリ異国湊口迄船路積、為三十六町一里

大明国内



安南国之内

千三百里

東京——此国ヨリ黄糸、小絹、ほらあや、北絹、りんす、ば、袖、肉桂、麝金、宿砂出ル。日本ヨリ銅、鉄、銭、硫黄、葉罐、水風呂、扇子、傘、鏡、萬器物渡ス。

千五百十里

跋趾——此国ヨリ黄糸、小絹、龍爪、沈、伽羅、鮫、黑砂糖、蜜、胡椒、金出ル。日本ヨリ銅、鉄、銭、萬器物、葉罐、水風呂、帷子、木綿布子、傘、扇子渡ス。

千三百里

占城——此国ヨリ伽羅、魚交出ル。日本ヨリ萬商賣物少渡ス。小国故商賣物少。

千四百八十里

かほしや——此国ヨリ鹿皮、漆、象牙、蠟蜜、黑砂糖、藤、水牛ノ角、犀角、檳榔子、大風子、胡椒、鬱金、鮫、孔雀ノ尾、はんや出ル。日本ヨリ銅、鉄、硫黄、せうのふ、萬器物、扇子、傘、葉罐渡。

天竺之内

千八百廿里

志やむろ——此国ヨリ蘇木、鹿皮、唐皮、象牙、柄魚交、水牛ノ角、錫、鉛、龍腦、きりんけつ、さらさ、木綿嶋之類、藤、珊瑚珠。日本ヨリ屏風、畳、其外かほしや同前。

千七百六十里

ばたん——此国ヨリ胡椒、鮫、象牙出ル。

二千五百里

満らか——此国南蛮人舟繫之ため住宅ス。少之嶋崎也。錫、鮫、肉豆蔻、羽織袴用葛之類出ル。

三千六百五十里

ごわ——此国満らか同前。あせん葉、木香、志たん、阿めんとす、はあさと云葡萄酒、木綿嶋之類出ル。

千七百五十里

○ふるねる——此国ヨリ龍腦、白壇出ル。日本ヨリ鉄渡。

千五百里

○満ろく——此国ヨリ丁子出ル。おらんと南蛮人城を取住宅ス。年々貴合て合戦。

志やわ国之内

二千五百里

志やかたら——此国之内三十里四方計おらんた志たかへ城を取、国々^江之手違^{ワス}。又国々之物を買、方々^江渡。此国には商賣なし。

一万七百里

いんけれど——此所^リ猩猩々緋、らしや、は阿、らせいた、遍るさい、ほるらんしや、あるみさい、えかれた満すこらんや、萬毛織、ひいどろの類

葡萄酒出。

一万九百里

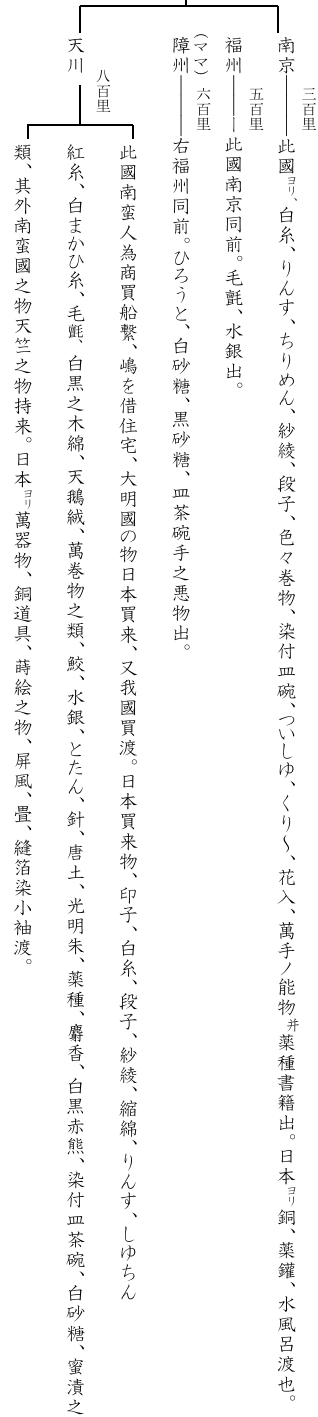
○おらんた

ふらんさと云国之内也。

⑬〔堺市本〕

日本長崎ヨリ 異國湊ヨリ 迄船路積、為三十六町一里

大明國之内

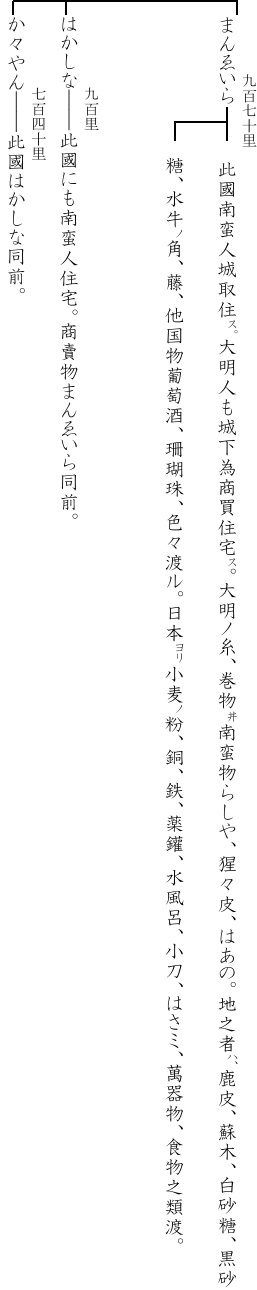


○多加佐古 五百里

此國北ノ端たんついと云所、呂宋南蛮人住宅ス、南ノ方たいわんと云湊ニ日本人商買渡、おらんたも住宅ス。大明近故、糸、巻物之類、此所ニ而

おらんた買集故、天竺南蛮物も有之。地有之物者鹿皮也。日本ヨリ銅、鉄、葉罐渡。但地之者、余不買取、大明人賣也。

呂宋之内



安南國之内

千二百里
東京——此國ヨリ黄糸、北絹、ほらあや、北絹、りんす、ば、紬、肉桂、鬱金、宿砂出。日本ヨリ銅、鉄、錢、硫黄、葉罐、水風呂、扇子、からかさ、鏡、萬器物渡ス。
千五百十里
跋趾——此國ヨリ黄糸、北絹、りうつめ、沈、伽羅、鮫、黑砂糖、蜜、胡椒、金出。日本ヨリ銅、鉄、錢、萬器物、葉罐、水風呂、帷子、木綿布子、からかさ、扇子渡ス。

天竺之内

千二百里
占城——此國ヨリ伽羅、鮫出。日本ヨリ萬商買物少渡ス。小國故商買物少。
千四百八十里
かほしや——此國ヨリ鹿皮、漆、象牙、蠟蜜、黑砂糖、藤、水牛角、さいかく、檳榔子、大風子、胡椒、うこん、孔雀尾、はんや出。日本ヨリ銅、鉄、硫黄、せうのふ、萬器物、扇子、からかさ、
千八百廿里
志やむろ——此國ヨリ蘇木、鹿皮、唐皮、象牙、柄鮫、水牛角、錫、りうのふ、きりんけつ、さらさ、木綿鳴ノ類出。日本ヨリ屏風、畳、其外かほしや同前。
千七百六十里
ばたん——此國ヨリ胡椒、鮫、象牙出。
武千五十里
まらか——此國南蛮人舟繫之ため住宅。少之嶋崎也。錫、鮫、にくづく、羽織袴用嶋之類出。
三千六百五十里
ごわ——此國まらか同前。阿せん屋く、木香、志たん、阿めんとす、はあさと云葡萄酒、木綿鳴之類出。
千七百五十里

○ふるねる——此國ヨリりうのふ、白壇出。日本ヨリ鉄を渡ス。
千五百里

○まろく——此國ヨリ丁子出。おらんと南蛮人城を取住宅。年々貴合て合戦
武千五百里

志やわ國之内 志やかたら——此國之内三十里四方計おらんと志たかへ城を取、國々之手遣をス、亦國々之物を買、方々之遣。此國には商賣物なし。
一万七百里

いんけれどす——此國所ヨリ猩々紅、らしや、は阿の、らせいた、遍るさい、ほるらんしや、阿るミさい、えかれた満すこらんにや、萬毛織、ひいどろの類
一万九百里
葡萄酒出ル

○おらんだ——ふるんさといひ國之内也